

題材名 「朝のリレー」「野原はうたう」(第1時/全1時間)

目標 音声の働きや仕組みについて、理解を深めることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 4分	① 題材名「朝のリレー」「野原はうたう」を板書させる。 ② 本時の目標を板書させる。 語感を磨き語彙を豊かにする。中学校の国語の学習方法を知る。 ・ワークシートを配付し、氏名などを書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。
展開 40分	③ 詩「朝のリレー」を音読させる。 ・教科書 表紙裏、P. 12-15 を教師に続けて生徒にも読ませる。 「今度はみんなで声を合わせて読んでみよう」 「次は、一行ずつ交代で読んでみよう」 「最後に、自分で一つ詩を選び、音読してみよう」 ○ 詩や場面によって音読のリズムや表情を変えて音読している生徒をほめる。声を合わせようとしている生徒をほめる。 ○ この詩を読んで感じたことや考えたことをワークシートに記述させ、数名の代表的意見者に発表させる。 ④ 詩「野原はうたう」を音読させる。 「たんぽぽやかまきりになったつもりで読んでみよう」 ○ この詩を読んで感じたことや考えたことをワークシートに記述させ、数名の代表的意見者に発表させる。 ⑤ 生徒の感じたことや考えたことを発表させ、それぞれの詩の良さや楽しさをまとめさせる。	・教師の指示に従いながら、いろいろなパターンで詩を音読する。 ・自分の考えたことや感じたことをワークシートに記述し、指名されて発表する。 ・教師の指示に従いながら、いろいろなパターンで詩を音読する。 ・自分の考えたことや感じたことをワークシートに記述し、指名されて発表する。 ・同様の感じ方や異なった感じ方も認めながら、詩の良さをまとめる。
終 1分	⑥ 次時の予告をする。 「次の時間は、P. 16-20 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・言葉のリズムや繰り返しを味わいながら、何度も音読する中で作者の視点の違いや表現の楽しさを感じられるようにする。
- ・それぞれの生徒が感じたことや考えたことなどを発表させ、同様の感じ方もあれば異なる感じ方や意見もあることを発見させる。
- ・家庭学習での音読が難しい生徒は、保護者の協力をお願いする。授業場面では、教師の後について読ませたり、親しい友達について読ませたりする。
(以下のような習慣づけなども大切にするとよい)
- ・日付、復習、題材、めあて、課題、自分の意見、友達の意見、まとめ、練習、振り返り、次時 は、マグネットで作っておく。毎時使用する。
- ・補習校では、毎日の家庭学習は必須。次時に学習する頁は、必ず毎日一回以上は音読する習慣づけが大切。次時に出てくる新出漢字の練習と難解語句の下調べも家庭学習の基本であることを中学校国語の学習の原則とする説明が必要。

板書例

- ① 題材名「朝のリレー」「野原はうたう」を板書する。
 ② 本時の目標を板書する。
 「語感を磨き語彙を豊かにする。中学校の国語の学習方法を知る」

③ 詩「朝のリレー」を音読させる。

④ 詩「野原はうたう」を音読させる。

日付	月 日
題材	「朝のリレー」「野原はうたう」「言葉に出会うために」
目標	語感を磨き語彙を豊かにする。中学校の国語の学習方法を知る。
課題	詩の面白さを音読して感じよう。
自分の意見	ノートに書く↓発表 「朝のリレー」 「野原はうたう」
友達の意見	他の発表を聞いて感じたこと考えたこと。 「朝のリレー」Aさんの意見 Bさんの意見 Cさんの意見 「野原はうたう」Aさんの意見 Bさんの意見 Cさんの意見
まとめ	↓（生徒が発表した感じたことや意見などから重複したり、似たりしている事柄をまとめて、板書する） 例 作者の視点が地球的に広い 作者の視点が昆虫的に小さい 他の人々や民族とのつながりを感じる 自分の感じる光や季節を楽しんでいる
振り返り	↓本字の感想をノートに一行で記述させる。 例 かまきりが威張っているようで面白かった。 地球が回っている感じがして楽しかった。
次時	P.18-20 毎日一回以上は音読してくる。新出漢字は練習してくる。

⑤ 生徒の感じたことや考えたことを発表させ、それぞれの詩の良さや楽しさをまとめさせる。

⑥ 次時の予告をする。
 「次の時間は、P.16-20の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

02

題材名 「声を届ける」「書き留める」(第1時/全2時間)

目標 目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にできる。

領域名 言葉、情報、言語文化 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 本時の題材名「声を届ける」「書き留める」を板書する。 ② 本時の目標を板書する。 目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にしよう。 ・ワークシートを配付し、氏名・目標などを書き込ませる。 ・声を合わせて読ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書「声を届ける」を教師が音読する。 ・「私の読むのを聞きながら、大切だと思うポイントの言葉に○を付けましょう。」と指示する。 ・課題を斉唱させ、ワークシート(1)の「声を届ける」の空欄に記入させ、発表させる。 ・ワークシートへの記入状況を巡回し、進まない生徒には教科書に線を付けるなどする。 ④ 教科書「書き留める」を教師が音読する。 ・「私の読むのを聞きながら、大切だと思うポイントの言葉に○を付けましょう。」と指示する。 ・ワークシート(2)の「書き留める」の空欄に記入させ、発表させる。 ・ワークシートへの記入状況を巡回し、進まない生徒には教科書に線を付けるなどする。 ⑤ 板書された発表を皆で確認させる。	・教師の範読中にポイントとなる言葉に○を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書の記述からワークシートに記入し、指名されて発表する。 ・教師の範読中にポイントとなる言葉に○を付ける。 ・教科書の記述からワークシートに記入し、指名されて発表する。 ・自分のワークシートへの記述と板書発表を比較して確認する。
終 5分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでノートに記述させる。 ・数名を指名して発表させ、ほめる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、P. 19-20 の学習をします。次週は P22-29 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・実際には第2時。教師の範読中心。その後に、ワークシート記入させ、発表させて、答え合わせする。
- ・補習校の学習は授業だけでは十分に目標は達成されない。家庭学習との協調が欠かせない。こうした家庭学習での予習、復習の大切さを毎時の復習と次時への予告で繰り返す。

板書例

- ① 題材名「声を届ける」「書き留める」「言葉を調べる」「続けてみよう」を板書する。
- ② 本時の目標を板書する。目標や氏名をワークシートに記入させる。

- ③ 「声を届ける」を教師が範読し、その間にポイントとなる語句に○などを付けさせる。その後ワークシート(1)に取り組みさせる。
- ④ 「書き留める」を教師が範読し、その間にポイントとなる語句に○などを付けさせる。その後ワークシート(2)に取り組みさせる。
- ⑤ 本時の重要点(まとめ)を板書する。生徒にワークシートに記述させる。

<p>日付 月 日</p>	<p>題材 「声を届ける」「書き留める」</p>	<p>目標 目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にしよう。</p>	<p>課題 教科書の記述からポイントを見つけ○を付ける。</p>	<p>自分の意見 ワークシートに書く↓発表</p>	<p>友達の意見</p>
					<p>(1) 「声を届ける」 *生徒の記述</p>
					<p>(2) 書き留める *生徒の記述</p>
					<p>まとめ 音読や発表時の注意点やノートやメモの重要性を確認した。</p>
					<p>振り返り ↓本字の感想をノートに一行で記述させる。</p>
					<p>次時 P. 19-20。次週はP. 22-29。毎日一回以上は音読。新出漢字は練習</p>
					<p>難読語句は調べてくる。</p>

- ⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 19-20の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

- ⑦ 振り返り：本時の感想を一行でワークシートに記述させる。
・肯定的な生徒数名に発表させ

03

題材名 「言葉を調べる」「続けてみよう」(第2時/全2時間)

目標 目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にできる。

領域名 言葉、情報、言語文化 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 本時の題材名「言葉を調べる」「続けてみよう」を板書する。 ② 本時の目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にしよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートを配付し、氏名などを書き込ませる。 声を合わせて読ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本時の目標を知る。 声を合わせて目標を読む。 目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書「言葉を調べる」を教師が音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 「私の読むのを聞きながら、大切だと思うポイントの言葉に○を付けましょう。」と指示する。 課題を斉唱させ、ワークシート(1)の「言葉を調べる」の空欄に記入させ、発表させる。 ワークシートへの記入状況を巡回し、進まない生徒には教科書に線を付けるなどする。 ④ 教科書「続けてみよう」を教師が音読する。 <ul style="list-style-type: none"> 「私の読むのを聞きながら、大切だと思うポイントの言葉に○を付けましょう。」と指示する。 ワークシート(2)の「続けてみよう」の空欄に記入させ、発表させる。 ワークシートへの記入状況を巡回し、進まない生徒には教科書に線を付けるなどする。 ⑤ 板書された発表を皆で確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 教師の範読中にポイントとなる言葉に○を付ける。 課題を斉唱し、教科書の記述からワークシートに記入し、指名されて発表する。 教師の範読中にポイントとなる言葉に○を付ける。 教科書の記述からワークシートに記入し、指名されて発表する。 自分のワークシートへの記述と板書発表を比較して確認する。
終了 5分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、P.22-29の学習をします。次週はP.30も学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	<ul style="list-style-type: none"> 一行感想を書いて、数名発表。 次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・実際には第2時。教師の範読中心。その後に、ワークシート記入させ、発表させて、答え合わせする。
- ・補習校の学習は授業だけでは十分に目標は達成されない。家庭学習との協調が欠かせない。こうした家庭学習での予習、復習の大切さを毎時の復習と次時への予告で繰り返す。

板書例

- ① 題材名「声を届ける」「書き留める」「言葉を調べる」「続けてみよう」を板書する。
- ② 本時の目標を板書する。目標や氏名をワークシートに記入させる。

- ③ 「声を届ける」を教師が範読し、その間にポイントとなる語句に○などを付けさせる。その後ワークシート(1)に取り組みさせる。
- ④ 「書き留める」を教師が範読し、その間にポイントとなる語句に○などを付けさせる。その後ワークシート(2)に取り組みさせる。
- ⑤ 本時の重要点(まとめ)を板書する。生徒はワークシートに記述する。

日付	月 日
題材	「声を届ける」「書き留める」
目標	目的や意図に応じて題材を集め、整理し、伝えたいことを明確にしよう。
課題	教科書の記述からポイントを見つけ○を付ける。
自分の意見	ワークシートに書く↓発表
友達の意見	
	(1) 「調べてみよう」 *生徒の記述
	(2) 「続けてみよう」 *生徒の記述
まとめ	音読や発表時の注意点やノートやメモの重要性を確認した。
振り返り	↓本字の感想をノートに一行で記述させる。
次時	P. 22-29。次週はP. 22-29。毎日一回以上は音読。新出漢字は練習
	難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 22-29の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 振り返り：本時の感想を一行でワークシートに記述する。
・肯定的な生徒数名に発表させる。

04

題材名 「シンシュン」(第1時/全2時間)

目標 場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえられる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 5分	① 本時の題材名「シンシュン」、目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">心情や行動を表す語句に注意して読もう。</div> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	② 教科書「シンシュン」を生徒に音読させる。約5-6分。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・「心情や気持ちを表す語句に青線をつけ、行動を表す語句に赤線を付けましょう。」と指示する。 ・生徒が音読しているときは、巡回して青線や赤線を付けている生徒をほめる。 ③ 課題を斉読させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・教科書に記した青線や赤線を参考にして、ワークシートに「心情を表す語句」「行動を表す語句」欄に人物と語句と場面を記入させる。 ・進んでいる生徒には板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。10分程度。 ④ 板書の発表を皆で確認する。 ⑤ まとめを書く。	・巡回に注意しながら音読に参加する。 ・音読中に心情や行動の語句に青線、赤線を付ける。 ・青線赤線を付けた部分を参照して、ワークシートに記入する。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・友達の発見した語句も参考にし、心情語・行動語とその場面について記述する。 ・自分のワークシートと板書発表を比較して確認する。 ・まとめを書く。
終 5分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、P.22-29の学習をします。次週はP.30も学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・音読をしたり、聞いたりしている中で、心情を表す言葉と行動を表すことばを見つけさせる。
- ・行動と心情は連動していることに気づかせる。
- ・次週で「場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化」に迫るので、本時では心情や行動を表す語句とその場面に注目させる。

板書例

- ① 本時の題材名「シンシュン」、目標を板書する。
- ② 「シンシュン」を生徒に音読させる。約 5-6 分。

- ③ 課題を斉読させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
- ④ 板書の発表を皆で確認する。
- ⑤ まとめを書く。

日付	月 日
題材	「シンシュン」
目標	心情や行動を表す語句に注意して読もう 心情を表す語句に青線、行動を表す語句に赤線を付ける。
課題	

自分の意見

ワークシートに書く↓発表

友達の意見

納得できる発表は、自分のワークシートに書き足す。

(1) 【心情語句】【人物】【場面】

- A さんの意見
- B さんの意見
- C さんの意見

(2) 【行動語句】【人物】【場面】

- A さんの意見
- B さんの意見
- C さんの意見

まとめ

振り返り

↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。

次時

P. 22-29。次週は P30。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

- ⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

- ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 22-29 の学習をします。次週は P30 も学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

題材名 「シンシュン」(第2時/全2時間)

目標 場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえられる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.29 の新出漢字・新出音訓漢字、難読語句の漢字テストをする。5問のみ。書く問題のみ。送り仮名も正確に。○付けさせて提出させる。*漢字豆テスト用の小紙をたくさん作っておくこと。</p> <p>② 本時の題材名「シンシュン」を板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を板書する。 <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字豆テストに取り組む。答え合わせをして提出する。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標等をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③教科書「シンシュン」を生徒に音読させる。約5-6分。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「この物語は三つの場面に分けられます。P22の1行目の上に(1)、P23の9行目の上に(2)、P25の5行目の上に(3)を付けましょう。」と指示する。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・生徒が音読しているときは、巡回して音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』とか(トル)ほめる。 <p>④課題を斉唱させ、ワークシートに記入させる。10分程度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の記述が始まったら、机間指導し、良いポイントの記述ができていない生徒に板書に出て書かせる。 <p>⑤板書に発表された生徒の記述を学級全体で眺めながら、各場面における登場人物の関係をまとめる。10分程度。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つの場面の登場人物の関係の変化について、適切な言葉にまとめてさせる。 ・机間巡視して適切な言葉を見つけている生徒に発表してもらう。 <p>⑥板書に発表された言葉や関係性を確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・場面に番号を付ける。 ・巡回順に注意しながら音読に参加する。 ・音読のリズムや調子に工夫する。 ・課題を斉唱し、場面毎に登場人物の心情や行動の語句を記入していく。 ・指名を受けたら、板書に記述してくる。 ・登場人物の関係を表す言葉を見つける。 ・友達の発見した語句も参考にし、人物の関係変化をワークシートに記入する。 ・自分のワークシートと発表を比較し確認する。
終 3分	<p>⑦振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 <p>⑧次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、P.30の学習をします。次週はP.32-37を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・心情や行動を表す語句の重なりに注意すると、場面毎に心情や関係が変化していることに気づかせる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、今後は毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。漢字豆テスト用の用紙は、たくさん作っておく。ほぼ毎時間豆テストを行う。実施後集約して評価の一助とする。また、家庭学習として漢字練習しているノートなどを毎月提出させ、簡単に点検して、ほめる。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の対象とする。

板書例

- ① 新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。
- ② 題材名、目標などを板書し、斉読させる。

- ③ 「シンシュン」を音読させる。
 - ・三場面に番号を付け、音読を聴きながら、心情・行動を表す語句を確認するようにさせる。

- ④ ワークシートに取り組みさせる。
 - ・進んでいる生徒には板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導を行う。
- ⑤ 発表された板書を皆で確認させながら、関係性をまとめさせる。
- ⑥ 三場面の人物の心情・行動・関係性の変化を確認させる。

日付	月 日
題材	「シンシュン」
目標	場面の展開に沿って、登場人物の関係の変化をとらえる。
課題	三つの場面での登場人物の関係の変化を表す言葉を見つけよう。

自分の意見	ワークシートに記入↓発表
友達の意見	納得できる発表は、自分のワークシートに書き足す。
(1) 【場面】【心情語句・行動語句】【人物の関係】	A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
(2) 【場面】【心情語句・行動語句】【人物の関係】	A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
(3) 【場面】【心情語句・行動語句】【人物の関係】	A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見

まとめ	場面毎に二人の気持ちや行動に変化が出て、関係が変化していくことが分かった。
振り返り	↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。

次時	P.30。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。
-----------	-----------------------------------

- ⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、P.30-31 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

- ⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「情報を的確に聞き取る」(第1時/全12時間)

目標 要点をおさえて聞き取り、メモに取れるようにさせる。

領域名 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.29 の新出漢字・新出音訓漢字、難読語句の漢字テストをする。5問のみ。書く問題のみ。送り仮名も正確に。○付けさせて提出させる。 <u>*漢字豆テスト用の小紙をたくさん作っておくこと。</u> ② 本時の題材名「情報を的確に聞き取る」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 要点をおさえて聞き取り、メモに取ろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・漢字豆テストに取り組む。答え合わせをして提出する。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて題材名、目標を読む。 ・目標等をワークシートに記入する。
展開 35分	② P.30 を生徒に音読させる。約1-2分。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・生徒が音読しているときは、巡回して音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』とかほめる。 ③ 課題を斉唱させ、ワークシートに記入させる。10分程度。 ・生徒の記述が始まったら、机間巡視し、良いポイントの記述ができている生徒に板書に出て書いてもらう。 ④ 板書に発表された生徒の記述を学級全体で眺めながら、聞き取りの「上達のポイント」を皆で確認する。 ・時間があれば、二人組みを作り、放送委員と聞き役に別れて「体育委員会の開催」について放送文を考えさせ、聞き取らせる練習をする。 ・更に時間があれば、P.31 の「季節のしおり春」を読ませて、好きな詩・短歌・俳句の一つをワークシート裏に視写させる。	・巡回順に注意しながら音読に参加する。 ・音読のリズムや調子に工夫する。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。 ・指名を受けたら、板書に記述してくる。 ・自分のワークシートと発表を比較し確認する。 ・時間があれば、体育委員会の放送と聞き取りを練習させる。 ・更に時間があれば、季節のしおり春の詩等を視写する。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、P.32-33 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・話す言葉(音声言語)は直ぐに消えてしまうので、メモを取る習慣が大切なことを理解させる。
- ・今後は、新出漢字、新出音訓、難解語句など教科書の中から毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。漢字豆テスト用の用紙は、たくさん作っておく。毎時間豆テストを行う。実施後集約して評価の一助とする。また、家庭学習として漢字練習しているノートなどを毎月提出させ、簡単に点検して、ほめること。

板書例

- ① 新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。
- ② 題材名、目標などを板書し、斉読させる。

- ③ 教科書 P.30 を音読させる。
・良い音読や姿勢が良い者をほめる。

- ④ ワークシートに取り組みさせる。
・進んでいる生徒には板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導を行う。
- ⑤ 板書に発表されたことを皆で確認していく。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	まとめ	振り返り	次時		
月 日	P.29 の漢字テスト	「情報を的確に聞き取る」	要点をおさえて聞き取り、メモに取ろう。	音声の情報だけを聞いて、重要点をメモに取ろう。 ワークシートに記入↓発表	ワークシートに書き足す。	納得できる発表は、自分のワークシートに書き足す。 (1) 黄色の枠内の放送 *生徒の記述	(2) 緑の枠内の放送 *生徒の記述	(3) 上達のポイント *生徒の記述	聞いたことをメモする習慣を付けると要点を逃さないようになる。	↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。	P.32-33。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

- ⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 32-33 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

- ⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「比較・分類」(第1時/全1時間)

目標 情報を比較・分類・順序立てなどして整理できる。

領域名 情報

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 29 新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。*書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「比較・分類」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 情報を比較・分類・順序立てなどして整理できるようにしよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書「比較・分類」を生徒に音読させる。約3-4分。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読させる。 ・わからない漢字や語句には□を付けさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』とほめる。 ④ 課題を斉唱させ、教科書 P. 32-33 を参照してワークシート(1)(2)(3)(4)に取り組ませる。 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は、机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導をする。 ⑤ (1)~(4)の板書の発表を皆で確認する。 ⑥ 教科書 P32-33 下段「問題1」「問題2」をワークシート(5)(6)に取り組ませる。 ⑦ 本時のまとめを板書する。	・順番に音読する。 ・わからない漢字や語句には□を付ける。 ・巡回順に注意しながら音読に参加する。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)(4)に取り組む。 ・進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較し、確認する。 ・ワークシート(5)(6)に取り組む。 ・まとめをワークシートに記入する。
終 3分	⑧ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次の時間は、P. 32-37 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・情報の整理は、授業中の意見の整理方法と同様であり、これからの学習に必須の知識・技能である。
- ・情報(意見・解法)を比較・分類・統合・序列しながら整理することが思考することに直結する。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.29 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「比較・分類」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.32-33 を生徒に音読させる。
- ④ ワークシート(1)～(4)に取り組みさせる。進んでいない生徒は板書に発表。
- ⑤ 板書された発表を皆で確認する。
- ⑥ ワークシート(5)(6)に取り組みさせる。

⑦ まとめを板書する。生徒には、ワークシートに記入させる。

日付	月 日	復習	P.29 の漢字テスト	題材	「比較・分類 情報整理のレッスン」	目標	情報を比較・分類・順序立てなどして整理できるようにする。	課題	情報を整理する方法を知ろう。
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;"> <p style="text-align: center;">自分の意見</p> <p style="text-align: center;">ワークシートに記入↓発表</p> </div> <div style="width: 15%;"> <p style="text-align: center;">友達の意見</p> </div> </div>									
<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 15%;">(1) 比較 *生徒の記述</div> <div style="width: 15%;">(2) 分類 *生徒の記述</div> <div style="width: 15%;">(3) 分類・整理 *生徒の記述</div> <div style="width: 15%;">(4) 順序・流れ *生徒の記述</div> <div style="width: 15%;">(5) 私の家の犬 *生徒の記述</div> <div style="width: 15%;">(6) コタロウ *生徒の記述</div> </div>									
<p>まとめ 情報を正確に理解したり伝えたりするためには、目的に合わせて情報を整理すること。</p>									
<p>振り返り ↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。</p>									
<p>次時 P.32。次週はP.32-37。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語</p>									

⑨ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 34-37 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

板書例

① P.33 新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「情報を整理して書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P.34-37 を生徒に音読させる。

④ ワークシートに取り組みさせる。指名を受けて板書で発表。

・題材や相手などが決めにくい生徒には、教科書の下段にある「オリンピックで活躍した選手紹介」「漫画のキャラクター紹介」「わが家のカレー」「おすすめ場所」から選ぶようにさせる。

⑤ 板書された発表を皆で確認する。

<p>次時 P.34-37。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。</p>	<p>振り返り ↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。</p>	<p>まとめ 情報は、5W1H（いつ、だれが、どこで、何を、どこ、どのよう）を基本にして集めるとよい。</p>	<p>自分の意見 ワークシートに記入↓発表</p> <p>自分の意見 *生徒の記述 Aさんの意見 Bさんの意見 Cさんの意見 Dさんの意見 *生徒のワークシートを貼ってもよい</p>	<table border="1"> <tr> <td>課題</td> <td>自分の題材を決め、集めた情報を、比較したり分類したりして整理しよう。相手や目的を決めて題材を選び、情報を集め、構成を考える。</td> </tr> <tr> <td>目標</td> <td>「情報を整理して書こう」</td> </tr> <tr> <td>題材</td> <td>「比較・分類」の漢字テスト</td> </tr> <tr> <td>復習</td> <td>「比較・分類」の漢字テスト</td> </tr> <tr> <td>日付</td> <td>月 日</td> </tr> </table>	課題	自分の題材を決め、集めた情報を、比較したり分類したりして整理しよう。相手や目的を決めて題材を選び、情報を集め、構成を考える。	目標	「情報を整理して書こう」	題材	「比較・分類」の漢字テスト	復習	「比較・分類」の漢字テスト	日付	月 日
課題	自分の題材を決め、集めた情報を、比較したり分類したりして整理しよう。相手や目的を決めて題材を選び、情報を集め、構成を考える。													
目標	「情報を整理して書こう」													
題材	「比較・分類」の漢字テスト													
復習	「比較・分類」の漢字テスト													
日付	月 日													

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、P.34-37の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

09

題材名 「情報を整理して書こう」(第2時/全3時間)

目標 目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書ける。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 33 新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。*書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「情報を整理して書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 題材を決め、目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書こう ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシート2を配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前々時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 「情報を整理して書こう」P. 36-37を生徒に音読させる。約3-4分。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』とほめる。 ④ 課題を斉唱させ、生徒に自分のワークシート1を参照して、説明文(文章)を作成させる。 ・説明文作成中は、巡回し個別指導を実施する。 ⑤ 作成が困難になっている生徒のために、記述が進んでいる生徒に途中発表させることも必要。 ⑥ 本時のまとめを板書する。	・順番に音読する。 ・わからない漢字や語句には□を付ける。 ・巡回順に注意しながら音読に参加する。 ・課題を斉唱し、原稿用紙枠外に題材や相手(目的)を記入する。 ・原稿用紙に「初め」「中」「終わり」の構成に沿って記述する。 ・まとめをワークシートに記述する。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、P. 34-37の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・原稿用紙は、別紙が良いが、ワークシート2の裏でもよい。
- ・ワークシート1ができあがっていない者には、作成中に個別指導を実施する。
- ・ワークシート1ができあがっていない者には、個別指導を実施し、家庭学習で仕上げるように話す。

板書例

① P.33 新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「情報を整理して書こう」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.34-37 を生徒に音読させる。
- ④ 生徒は、ワークシート1を参照して原稿用紙に説明文を作成する。
・生徒が作成している間は、巡回して個別指導する。
- ⑤ 作成が困難になっている生徒のために、記述が進んでいる生徒の途中発表をしてもらうことも必要。
- ⑥ まとめを板書する。

	日付	月 日	復習	「比較・分類」の漢字テスト 「情報を整理して書こう」	題材	題材を決め、目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書こう	目標	目的や相手に応じて、説明文を作成する。	課題	
	友達の意見	それぞれの原稿用紙に記述↓次時に発表	自分の意見	原稿用紙に記述↓次時に発表						
	まとめ	相手や目的が明確だと、説明する情報の順序も考えやすくなる。	振り返り	↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。						
	次時	P.34-37。説明文発表。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。								

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、P.34-37の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「情報を整理して書こう」(第3時/全3時間)

目標 題材を決め、目的や相手に応じて、伝えたいことを明確にして書ける。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 33 のページ下段にある新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。＊書きのみ。送り仮名も。</p> <p>②</p> <p>③ 本時の題材名「情報を整理して書こう」を板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分の説明文を読んでもらい、良い点や改善点を見つけよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシート3を配付し、氏名や目標などを書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前々々々時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストに取り組む。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>④ 前時に書いた説明文をもう一度自分で読ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不足している部分を見つけた者は、書き足してよいことを伝える。 <p>5分程度。</p> <p>⑤ 生徒に自分の説明文を自分の机の上に広げて置かせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未完成の者もそのままよいことを伝え、机の上に置かせる。 <p>⑥ 他の生徒の説明文を巡回して読み、一行感想をワークシート3に記述させ、良かった点を該当生徒の説明文裏に一行で記述させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・席を一つずつ回る形で3分程ずつ計時して移動させる。計時は教師。 <p>⑦ 終業8分前になったら巡回を終わらせ、各自の机に戻らせ、説明文裏の「良かった点」を読ませ、自分の改善点を書かせる。</p> <p>⑧ 数名に良かった点や改善点を発表させ、板書してまとめとする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不足を感じたら付け足す。 ・説明文を机の上に置く。 ・3分以内に学友の説明文を読み、ワークシートに感想を書き、良かった点を該当者の説明文裏に一行記述する。 ・友達の良かった点を見て、自分の改善点を見つけ、書く。 ・まとめを書く。
終 3分	<p>⑨ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 <p>⑩ 次時の予告をする。</p> <p>「次の時間は、P. 38-40 の学習をします。次週は P. 42-45 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・終業8分前まで、説明文を読み合い、良い点を見つけさせる。
- ・友達の良い点を参考にして、自分の改善点を見つけさせる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① 「比較・分類」の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。

5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「情報を整理して書こう」、本時の目標を板書する。

目標を斉読させ、記述させる。

③ 自分の説明文を見直す。必要ならば、付け足す。

④ 自分の説明文を机の上に置かせる。

⑤ 生徒は、ワークシート3を持って、友達の説明文を巡回して読み、良かった点を該当者説明文裏に記述し、感想を自分のワークシート3に書く。

⑥ 巡回が終わったら、生徒は自分の説明文の裏の「良かった点」を読む。

⑦ 数名に良かった点や改善点を発表させ、板書してまとめとする。

くる。

次時

P.38-39。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べて

振り返り

↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。

まとめ

友達の良かった点⇨ねこのことが具体的に良かった。
自分の改善点⇨外見だけでなく、性格も良い点も悪い点も書
けば良かった。

日付

月 日

「比較・分類」の漢字テスト

「情報を整理して書こう」

自分の説明文を読んでもらい、良い点や改善点を見つけよう。
友達の作成した説明文を読んで、良い点や改善点を見つける。

自分の意見

読んだ原稿用紙裏に記述

友達の意見

自分の説明文原稿裏に記述

⑧ 次時の予告をする。

「次の時間は、P.38-39の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「漢字1、漢字に親しもう1」（第1時／全1時間）

目標 漢字の組み立て等を知り、語彙を増やし、漢字を読み書き使用できる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① 本時の題材名「漢字1、漢字に親しもう1」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 漢字の組み立て等を知り、語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようになる。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	② 教科書P.38-39上段までを生徒に音読させる。2-3分。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ③ 課題を斉唱させ、生徒に教科書を参照してワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。 ・進んでいる生徒には、板書に書いて発表させる。寿司産んでいない生徒には個別指導を行う。 ・更に進んでいる生徒には、P.39,40の練習問題に取り組みさせる。 *直接教科書に記入させる。 ④ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑤ 本時のまとめを板書する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・自分の順番に注意して、音読する。 ・自分のワークシートと板書で確認する。 ・まとめを記述する。
終了 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次の時間は、P.42-45の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・漢字の組み立てを知り、表意文字である漢字は、部分の組み合わせでできているものが多いことを理解させる。
- ・ワークシート(1)(2)(3)が早くできた者には、教科書の練習問題に取り組みさせる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① 題材名「漢字1、漢字に親しもう1」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

② 「漢字1」のP.38-39上段までを生徒に音読させる。
③ 生徒にワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導をする。

④ 板書の発表を皆で確認する。
⑤ 本時のまとめを板書する。

日付	月 日
題材	「漢字1」「漢字に親しもう1」
目標	漢字の組み立て等を知り、読み書き使用ができるようになるろう。
課題	漢字の共通する部分を見つけ、その名前や意味を知ろう。
自分の意見	ワークシートに記入
友達の意見	(1)漢字の組み立て
(2)部首	Aさんの意見 Bさんの意見 Cさんの意見
(3)P.40の1	↓ まとめ ↓ 振り返り ↓ 次時
次時	P.42-45。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次の時間は、P.42-45の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

12

題材名 「ダイコンは大きな根？」(第1時/全1時間)

目標 段落の役割に着目して、文章の内容を捉えられる。

領域名 C読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 39-40 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「ダイコンは大きな根？」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 段落の役割に着目して、文章の内容を捉えよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 42-45 までを生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、生徒に教科書 P. 43 下段を参照してワークシート(1)に記入させる。3分程。 ⑤ 生徒に教科書の形式段落毎に番号を付けさせる。1分程。 ⑥ 生徒にワークシート(2)(3)に取り組ませる。 ・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導を行う。 ⑦ 板書の発表を皆で確認し、まとめを書く。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・形式段落①～⑩の番号を付ける。 ・ワークシート(2)(3)に取り組ませる。 ・指名された者は、板書に記述し、発表する。 ・自分のワークシートと発表を確認し、まとめを書く。
終 3分	⑧ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次の時間は、P. 46-51 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・文章における段落の役割を「問い」「答え」「例示」「主張(考え)」としてとらえさせる。
- ・ワークシート(1)(2)(3)が早くできた者には、指名を受けて板書に出て記述し、発表する。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① 「漢字1」「漢字に親しもう1」の新出漢字や新出音訓、難読語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「ダイコンは大きな根?」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ 「ダイコンは大きな根?」のP.42-45を生徒に音読させる。
④ 生徒にワークシート(1)(2)(3)を記入させる。

⑤ 生徒に「ダイコンは大きな根?」の形式段落に番号を付けさせる。
⑥ ワークシート(2)(3)に取り組ませる。
・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導。
⑦ 板書の発表を皆で確認し、まとめを書く。

日付	復習	題材	目標	課題
月 日	「漢字1」「漢字に親しもう1」の漢字テスト 「ダイコンは大きな根?」	「ダイコンは大きな根?」	段落の役割を知り、文章の内容を捉えよう。 段落の役割に着目して、文章の内容を捉えよう。	段落の役割を知り、問いと答え等の構成をとらえよう。

自分の意見	友達の意見
ワークシートに記入	ワークシートに記入 *教科書P.39下とP.40②③の教科書問題に記入

(1) 【段落の役割の例】
*教科書P.39下段通り(生徒の記述)

(2) 二つの問いとその答え *生徒の記述

1. 問い「ダイコンの白い部分は何の器官なのか」形式段落②
答え「根と胚軸の二つの器官からできている」④

2. 問い「二つの器官の味が違うのはなぜか」⑤
答え「胚軸は、葉で作られた栄養分を根に送るので甘い」⑥
「根は、虫の害から身を守るために辛い」⑧

(3) 形式段落⑨⑩の役割は、
Aさんの意見
Bさんの意見
Cさんの意見

まとめ
筆者は自分で問い、自分で答える形を取りながら、読者が納得しやすい理由を加え、説明文としている。

振り返り
↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。

次時
P.46-51。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑨ 次時の予告をする。
「次の時間は、P.46-51の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「ちょっと立ち止まって」①（第1時／全2時間）

目標 筆者の主張と事例との関係を理解できる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① 「ダイコンは大きな根？」の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「ちょっと立ち止まって」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 筆者の主張と事例との関係を理解しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書P.46-49までを生徒に音読させる。4-5分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 生徒に教科書P.46-49の形式段落に番号を付けさせる。①～⑩1分程。 ⑤ 課題を斉唱させ、生徒にワークシート(1)(2)に取り組ませる。P.50参照。 ・生徒が記述している時は、机間指導し、記述できていればほめる。記述できている生徒を板書に出して記述させる。進んでいない生徒には、個別指導を行う。 ⑥ 板書の発表を全員で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・形式段落①～⑩の番号を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・指名された者は、板書に記述し、発表する。 ・記述できていない部分は発表を参考に記述する。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次の時間は、P.50-51の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「ルビンのつぼ」「女性の絵」「化粧台の絵」等の見え方を事例にして、筆者の主張が支えられていることに気づかせる。
- ・ワークシート(1)(2)が早くできた者には、指名を受けて板書に出て記述し、発表する。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.45 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「ちょっと立ち止まって」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 46-49 を生徒に音読させる。
④ 形式段落に①～⑩の番号を付けさせる。

⑤ 生徒にワークシート(1)(2)に取り組ませる。
・進んでいる生徒に板書させる。進んでいない生徒には、個別指導。
⑥ 板書の発表を皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題
月 日	「ダイコンは大きな根？」の漢字テスト 「ちょっと立ち止まって」	筆者の主張と事例との関係を理解しよう。	各形式段落の要点を簡潔にまとめ、問題、事例、説明、主張などに分けてみよう。	
<p>自分の意見 ワークシートに記入 (1) 【文章の構成の例】 *教科書 P.50 下段通り</p>				
<p>友達の意見 *生徒の記述。</p>				
<p>(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① (問題) A だと思っていたことが B と指摘された経験 ② (事例) ルビンのつぼ ③ (説明) ルビンのつぼの見え方の説明 ④ (事例) 橋と少女 ⑤ (説明) 見る働きの一面 ⑥ (事例) 女性の絵 ⑦ (説明) 女性の絵の見え方の説明 ⑧ (事例) 化粧台の絵 ⑨ (事例) 富士山とビル ⑩ (主張) 見方を変えて新しい発見を 				
<p>まとめ 筆者は「ルビンのつぼ」「女性の絵」「化粧台の絵」「橋と少女」「富士山」「ビル」などの事例や説明をあげて、「物を見るときは他の見方を試してみると新しい発見がある。」という主張を支える構成にしている。</p>				
<p>振り返り ↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。</p>				
<p>次時 P. 50-51。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。</p>				

⑧ 次時の予告をする。
「次の時間は、P. 50-51 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

14

題材名 「ちょっと立ち止まって」②（第2時／全2時間）

目標 自分の生活の中で、ものの見方や考え方が変わった経験の事例を複数あげて発表できる。

領域名 情報 C 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 45 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「ちょっと立ち止まって」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自分のものの見方や考え方が変わった経験や事例を発表しよう。</div> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 50-51 までを生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、生徒にワークシート（1）に取り組みさせる。 ・生徒が記述している時は、机間指導し、記述できていればほめる。 ・記述できている生徒の中で、板書発表してくれる生徒を指名し、板書に簡略に記述させる。 ⑤ 板書した記述の発表をさせる。ワークシート（2）に取り組みさせる。 ⑥ 板書された発表などを聞いて、考え方が変化することについて、まとめを板書する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、ワークシート（1）に取り組む。 ・指名された者は、板書に記述する。 ・発表する生徒以外の生徒は、ワークシート（2）に取り組む。 ・ワークシートのまとめを記述する。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 52-53 と P. 54-57 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・まず、自分の考え方やものの見方が変わった経験を見つけ出させる。現地校体験や補習校体験があるだろう。
- ・学校生活や家庭生活、日本での生活や外地での生活等での経験を思い出させる。
- ・ワークシート（2）が早くできた者には、指名を受けて板書に出て記述（貼り出し可）させ、発表させる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.45 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「ちょっと立ち止まって」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 50-51 を生徒に音読させる。
④ 生徒にワークシート(1)に取り組ませる。

⑤ 板書した記述の発表をさせる。
⑥ 発表を聞いて、考え方が変化することについて、まとめを板書する。

日付	月 日
復習	「ダイコンは大きな根？」の漢字テスト
題材	「ちょっと立ち止まって」
目標	ものの見方や考え方が変わった経験や事例を発表しよう。
課題	自分の考え方が変わった経験を思い出し、以前の考え方が変わった考え方を事例あげて発表する。
自分の意見	ワークシート(1)に記入
友達の意見	*机間巡視中に記述できている生徒に板書させる。 *生徒の記述
	Aさんの体験 Bさんの体験 Cさんの体験 Dさんの体験
まとめ	様々な見方や考え方ができる方が、成長したと言える。
振り返り	↓本時の感想をワークシートに一行で記述させる。
次時	P. 52-53。次週P. 54-57。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 52-53。次週はP. 54-57も学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「思考のレッスン1 意見と根拠」(第1時/全1時間)

目標 原因・結果、意見・根拠など情報と情報の関係を理解させる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 51 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「意見と根拠」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 原因・結果、意見・根拠など情報と情報の関係を理解しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 52-53 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、生徒にワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が記述している時は、机間巡視し、記述できていればほめる。教科書 P. 53 参照。 ⑤ 教科書 P. 52-53 下段の「問題 1」「問題 2」に取り組みさせる。 ・机間巡視して個別に支援する。できている者に板書に記述させ発表させる。 ⑥ 板書の書かれた問題 1 問題 2 の回答を皆で検討する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 53 の枠内を参考にし、ワークシート(1)に取り組む。 ・教科書 P. 52-53 の下段の「問題 1」「問題 2」に取り組む。教科書に直接記入。指名を受けて板書に発表する。 ・自分の回答が不備ならば訂正しておく。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 54-57 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・同じ事実や情報(根拠)からでも違う結論が導かれることもあることを知らせる。
- ・根拠と結論(意見)を結びつける考え方も伝えられれば、説得力ある意見となることを理解させる。
- ・問題 1、問題 2 が早くできた者には、指名を受けて板書に出て記述し、発表する。

板書例

① P.51 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「意見と根拠」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 52-53 を生徒に音読させる。

④ 生徒にワークシート(1)(2)に取り組ませる。P. 53 参照。

⑤ 教科書 P.52-53 の下段「問題1」「問題2」に取り組ませる。

⑥ 板書の発表を皆で確認する。

日付	月 日
復習	「ちよつと立ち止まって」の漢字テスト 「意見と根拠」
題材	
目標	原因・結果、意見・根拠など情報と情報の関係を理解しよう。
課題	意見(結論)を支える根拠とそれらをつなぐ考え方を明確にしよう。
自分の意見	ワークシート(1)に記入 (1) 同じ根拠から違う結論 (2) 意見・根拠・つなぐ考え方
友達の意見	教科書 P. 52-53 下段の問題1, 問題2 * P. 52-53 の下段問題1 問題2
【問題1】	* 生徒の記述
【問題2】	* 生徒の記述
まとめ	結論を支える根拠は大切だが、それらをつなぐ考え方も重要。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 54-57。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。

「次時は、P. 54-57 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「話の構成を工夫しよう」①（第1時／全2時間）

目標 伝えたいことを明確にして、自分を紹介できる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 49 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「話の構成を工夫しよう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 伝えたいことを明確にして、自分を紹介しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 54-57 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、生徒にワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・生徒が記述している時は、机間指導し、記述できていればほめ、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。 ⑤ 板書の書かれたスピーチのポイントを皆で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 54-57 を参考にし、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・(2)(3)では自分のスピーチ原案作成。 ・板書の発表を参考にする。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 56-57 と P58 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・一分間スピーチの発表会を想定して、スピーチの作り方を理解させる。
- ・より良いスピーチにするためのポイントを理解させる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.49 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話の構成を工夫しよう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 54-57 を生徒に音読させる。
 ④ 生徒にワークシート(1) (2) (3) に取り組ませる。P. 54-57 参照。
 ・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。

⑤ 板書の発表を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.49 の漢字テスト
題材	「話の構成を工夫しよう」
目標	伝えたいことを明確にして、自分を紹介しよう。
課題	スピーチできるように準備しよう。
自分の意見	ワークシート(1)に記入
友達の意見	*進んでいる生徒の発表 *生徒の記述
(1)	
(2)	*生徒のワークシート貼り出し可
(3)	*生徒のワークシート貼り出し可
まとめ	スピーチは「作文読み」でなく、反応を見ながら発表すること。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 56-57。次週 P. 58。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P. 56-57 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「話の構成を工夫しよう」②（第2時／全2時間）

目標 伝えたいことを明確にして、自分を紹介できる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 53 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「話の構成を工夫しよう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 伝えたいことを明確にして、自分を紹介しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 56-57 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 前時に作った生徒のスピーチメモを活用して、自分を紹介する一分間スピーチをさせる。計時は教師。終了で時間を発表。 ・生徒が発表（スピーチ）している時は、教室の後ろにいてスピーチの評価をする。 ・発表者以外の生徒にはワークシートに一行感想と評価（内容と発表の2点項目のみ）を記述させる。 ・教師の評価は、スピーチ→質疑応答の後、良かった点を一言だけ伝える。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・前時に作成したスピーチメモを参照しながら、できるだけ顔を上げて発表する。 ・自分以外のスピーチについて、ワークシートに一行感想をと評価を記述する。
終 3分	⑤ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 59、P. 238-241 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・スピーチメモだけでは不安がある場合は、ワークシートの裏などに「簡単な原稿を書いても良い。」と伝えておく。
- ・模造紙等で『魅力的なスピーチ』の貼り出し教材を作成しておく。＊今後の「話す聞く」で活用可。
- ・スピーチ発表に移る前に、積極的に質疑応答することも大切だということを伝えておく。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.53 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話の構成を工夫しよう」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 56-57 を生徒に音読させる。
④ 生徒に一分間スピーチ発表をさせる。

→スピーチ、時間発表、質疑応答、ワークシート（一行感想、評価記入）

⑥ 板書の書かれたスピーチのポイントを皆で確認する。
⑦ 生徒にワークシート(3)に取り組みさせる。P.56 参照。

日付	月 日
復習	「ちよつと立ち止まって」の漢字テスト 「話の構成を工夫しよう」
題材	「話の構成を工夫しよう」
目標	伝えたいことを明確にして、自分を紹介する。 一分間スピーチで自分を紹介しよう。
課題	一分間スピーチで発表
自分の意見	一分間スピーチで発表
友達の意見	一分間スピーチを聞く。質疑応答。一行感想。評価。
『魅力的なスピーチ』	*模造紙などで作製しておき貼る
【内容】	① スピーチの目的、話の要点を明確にする。 ② 聞き手を想定する。 ③ 内容を整理する。 ④ 話す順番を工夫する。 ⑤ 体験など具体例を入れる。
【発表】	① 聞き手の反応を見る ② 声の大きさ ③ 話す速さや間 ④ 視線、表情、身振り手振り ⑤ 呼びかけや問いかけ
まとめ	内容は大切だが、発表する態度が更に大切。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 59、P. 238-241。次週 P. 60-66。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。

「次時は、P. 58。次週は P. 60-66 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「漢字に親しもう2」(第1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できる。

領域名 言語の特徴

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.53 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「漢字に親しもう2」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようになろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書P.58を生徒に音読させる。1-2分程。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。*教科書P.58の① ⑤ 数名にできた文章(文)を発表させる。 ⑥ 教科書P.58の②、③に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は、机間指導して進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導を行う。 ⑦ 板書に発表された回答を皆で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・課題を斉唱し、教科書P.58の①の問題へ回答する。指名を受けて発表する。 ・教科書P.58②、③の問題に取り組む。直接教科書に記入する。 ・指名を受けて板書発表。 ・板書された回答で確認する。
終 3分	⑧ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次時は、P.59+P.238-241の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・それぞれの生徒に漢字の読み書き使用ができるようにさせる。
- ・回答された漢字(語句・熟語)の意味について、発表者やわかる生徒に付け足しさせる。教師も可。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の大きな対象である。

板書例

① P.53 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「漢字に親しもう2」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P.58 を生徒に音読させる。
④ 生徒にワークシート(1)に取り組みさせる。

⑤ 指名を受けた生徒は、板書に発表。
⑥ 生徒は教科書 P.58②③に取り組みさせる。直接教科書に記入。指名を受けて板書に発表。
⑦ 板書された回答を皆で確認する。簡単な意味も確認する。

<p>次時 P.59 + P.238-241。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。</p>	<p>振り返り ↓ワークシートに一行で記述。</p>	<p>まとめ 読み書きできることは大切だが、意味もわかると漢字を覚えやすい。</p>	<p>3 2 1</p> <p>⑦ ⑥ ⑤ ④ ③ ② ① ⑥ ⑤ ④ ③ ② ① . . .</p> <p>*生徒の記述</p>	<p>友達の意見 教科書 P.58 の 1・2・3</p>	<p>自分の意見 ワークシートに1は記述、2・3は教科書に記述。</p>	<p>課題 語句の意味を考えながら漢字の読み書きができるようにする。</p>	<p>目標 漢字の読み書き使用ができるようになる。</p>	<p>題材 「漢字に親しもう2」</p>	<p>復習 「意見と根拠」の漢字テスト</p>	<p>日付 月 日</p>
--	---------------------------------------	---	---	--	---	---	--	---------------------------------	------------------------------------	--------------------------

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P.59 + P.238-241 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「文法への扉1」 P.59 「文法1」 P.238-241 (第1時/全1時間)

目標 日本語の文法を知り、適切に使用できる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 58 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「文法の扉1」「文法1」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 日本語の文法を知り、適切に使用しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 59+ P. 238-241 を生徒に音読させる。6-7 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシートに取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 238-241 を参照してワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 60-66 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・文法の重要な概略を押さえる学習。文章→段落→文→文節→単語→(音節)の各段階(レベル)をつかませる。
- ・「文」と「文章」の混同がよく見られるので、文法では明確に使い分けさせる。
- ・板書には、模造紙に枠だけを記入したレイアウト図を掲示し、そこに生徒に記入させる。授業後は、文法学習の際に毎時使える掲示物となる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。
- ・授業への取り組みや家庭学習への取り組みは、評価の対象となる。

板書例

① P.58 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「文法の扉1」「文法1」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 59 +P. 238-24 を生徒に音読させる。
 ④ ワークシートに取り組みさせる。教科書 P238-241 参照。
 ・進んでいる生徒の板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導。

⑤ 板書された回答を皆で確認する。

次時 くる。	振り返り P. 60-66。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。	まとめ 文章から単語まで、言葉の単位には段階（レベル）がある。教科書 P. 241 下段参照	*【複合語】 例	1 【文法とは】 2 【言葉の単位】 1文章・談話—2段落—3文—4文節—5単語				友達の意見 教科書 P. 238-241 参照	自分の意見 ワークシートに記述	課題 言葉の単位についてまとめよう。	目標 日本語の文法を知り、適切に使用しよう。	題材 「文法の扉1」「文法1」	復習 「漢字に親しもう2」の漢字テスト	日付 月 日
				*生徒の記述 *P.238-241を参照して書き加え可 ね> ね>										

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 60-66 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

文法構造図は模造紙で作製しておく。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「情報を集めよう」①「情報を読み取ろう」(第1時/全2時間)

目標 情報の効果的な集め方を知らせ、複数の情報を関連付けながら読み取ることができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 58 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 効果的な情報の集め方を知り、複数の情報を関連付けながら読み取ろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 60-62 を生徒に音読させる。3-4 分位。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認する。 ⑥ 教科書 P. 63 を生徒に音読させ、下段の「やってみよう」に取り組ませ、発表させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 60-61 を参照してワークシートに取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。 ・「やってみよう」に取り組む。指名を受けて発表する。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は、の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・生徒の中にはネット検索で調べることが常態化している者がいるだろうが、項目によってはネット検索しにくいものがあることに気づかせる。
- ・ネット検索以外の調べ方の良い点にも気づかせるようにする。
- ・ネットの情報にはフェイクや恣意的なものも多いことを伝え、データの出典や出所に注意が必要なことに気づかせる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。

板書例

① P.58 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 60-62 を生徒に音読させる。
④ ワークシート(1) (2)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒の板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導。

⑤ 板書された回答を皆で確認する。
⑥ 教科書 P. 63 を生徒に音読させ、「やってみよう」に取り組みさせ、回答を発表させる。

日付	月 日
復習	P.58 の漢字テスト
題材	「情報を集めよう」「情報を読み取ろう」
目標	情報の効果的な集め方を知り、複数の情報を関連付けながら読み取ろう。
課題	情報の効果的な集め方と読み取りの留意点をまとめよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	(1) 情報を集める *生徒の記述 (2) 情報を読み取る *生徒の記述
やってみよう	①×②○③○④○⑤×
まとめ	何のために（目的）の情報化を考えると情報の形も決まってくる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 68-72。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 66-72。 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「情報を引用しよう」「著作権について知ろう」②（第2時／全2時間）

目標 著作権を知らせ、情報の適切な引用の仕方を知ることができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① 「漢字に親しもう2」の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。＊書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「情報を引用しよう」「著作権を知ろう」を板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">著作権を知り、情報の適切な引用に仕方を考えよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書P.66+P.64-65を生徒に音読させる。3-4分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 <p>⑤ 板書された回答を皆で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書を参照してワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終 3分	<p>⑥ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 <p>⑦ 次時の予告をする。</p> <p>「次時は、P.68-72の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・著作権の法的意義を伝え、著作権を保護する態度を養う。
- ・ネットの情報や本や新聞の情報も引用するにはルールを知り、適切に活用できるようにする。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。

板書例

① P.58 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「著作権」「情報を引用しよう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 66+P. 64-65 を生徒に音読させる。
④ ワークシート(1) (2) に取り組ませ、進んでいる生徒の板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。

⑤ 板書された回答を皆で確認させる。

	日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	
	月 日	「漢字に親しもう2」の漢字テスト	「情報を引用しよう」「著作権を知ろう」	著作権を知り、情報の適切な引用に仕方を考えよう。	著作権を知り、情報の適切な利用方法を考える。	ワークシートに記述	
							意見 *教科書 P.66,65 参照 *進んでいる生徒に板書させる (1) 著作権 (2) 適切な引用
まとめ	著作権に気をつけながら、目的にあつた情報を引用できるようにする。						
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。						
次時	P. 68-72 毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。						

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P. 68-72 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名発表させる。

題材名 「詩の世界」①（第1時／全2時間）

目標 詩の言葉を読み味わい、語感を磨くことができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.66 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「詩の世界」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">詩の言葉を読み味わい、語感を磨こう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書P.68-72を生徒に音読させる。3-4分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ P68-71の三つの詩を各自に音読させる。2回ずつ。</p> <p>⑤ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。</p> <p>⑥ 板書された回答を皆で確認する。</p> <p>⑦ ワークシート(2)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。</p> <p>⑧ 板書された回答を皆で確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。 ・ワークシート(2)に取り組む。・指名を受けて板書に発表。 ・それを皆で確認する。
終 3分	<p>⑨ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑩ 次時の予告をする。 「次時は、P.68-72の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・それぞれの詩の描かれている情景や心情を感じる言葉を抜き出させる。
- ・それぞれの詩の印象深い表現とその効果を考えさせる。
- ・新出漢字と新出音訓、難解語句など教科書下段の中から、毎時始業後に豆テストを実施し、評価の一助とする。

板書例

① P.66 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「詩の世界」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 68-72 を生徒に音読させる。
- ④ 三つの詩を各自に 2 回音読させる。
- ⑤ ワークシート(1) (2) に取り組ませ、進んでいる生徒の板書に発表させる。

⑥ 板書された回答を皆で確認する。

日付	月 日	復習	P.66 の漢字テスト	題材	「詩の世界」	目標	詩の言葉を読み味わい、語感を磨こう。	課題	それぞれの詩の情景や心情、表現の効果を考えよう。	自分の意見	ワークシートに記述	友達の意見	*教科書 P.70-71 参照 *進んでいる生徒に板書させる
まとめ	詩は短い言葉の中に、作者の思いを詰めている。												
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。												
次時	P.72。次週 P.73-76。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。												
	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①	②	③	①
	「一枚の絵」*生徒の記述	「朝」	「未確認飛行物体」	「一枚の絵」*生徒の記述	「朝」	「未確認飛行物体」	「一枚の絵」*生徒の記述	「朝」	「未確認飛行物体」	「一枚の絵」*生徒の記述	「朝」	「未確認飛行物体」	「一枚の絵」*生徒の記述

⑧ 次時の予告をする。

「次時は、P. 72。次週は P. 73-76 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「詩の世界」②（第2時／全2時間）

目標 題材と表現の効果を考え、詩を作ることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 66 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「詩の世界」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 印象に残った表現を参考にして、詩を書いてみよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 72 を生徒に音読させる。1-2 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ P68-71 の三つの詩を各自に音読させる。2 回ずつ。 ⑤ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・机間指導して、書き進んでいる生徒をほめる。進んでいない生徒には、最近うれしかったことを思い出させる。 ・完成した生徒に「これを発表してくれないか？」と持ちかけ、了承されたら、皆に向かって発表させる。 ⑥ 発表された友達の詩の良さをほめる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・完成した者は積極的に発表する。未完の者は友達の発表を聞いて参考にする。 ・発表された詩を参考にする。
終 3分	⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 73-76 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時に学習した詩の世界や表現を参考にして生徒に詩を作らせる。
- ・効果的な表現が使えれば良いが、とにかく作詩ができた喜びを味合わせる。

板書例

① P.66 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「詩の世界」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.72 を生徒に音読させる。
- ④ P.68-71 の三つの詩を各自に2回音読させる。
- ⑤ ワークシート(1)(2)に取り組ませる。
・進んでいる生徒に発表の意向を聞いてから、発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。

⑥ 発表された友達の詩の良さをほめる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	まとめ	振り返り	次時		
月 日	「情報・・・」の漢字テスト	「詩の世界」	印象に残った表現を参考にして、詩を書いてみよう。	自分の詩を作ろう。	ワークシートに記述	*教科書 P.70-71 参照 *進んでいる生徒に意向をきいてから発表させる (1) 詩を作ろう (2) 作詩	① 題材を選ぶ ・友達 ・風景 ・絵、写真、映像	② 表現方法を使う ・「〜のように」 ・順序 ・たとえ ・繰り返し ・省略	*生徒の詩を貼っても良い	詩は短いので、題材は一つに絞る。 ↓ワークシートに一行で記述。	P.73-76。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。

「次時は、P.73-76 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「比喩で広がる言葉の世界」(第1時/全1時間)

目標 比喩について理解させ、言葉についての考えを深めることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.72 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「比喩で広がる言葉の世界」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 比喩について理解し、言葉についての考えを深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書P.73-76を生徒に音読させる。4-5分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒をほめ、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導を行う。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・板書と自分のワークシート記述を比較し、確認する。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.73-76の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・比喩の定義を筆者の記述からとらえさせる。
- ・比喩の二つの効果を筆者の記述からとらえさせる。
- ・代表的な比喩表現を作らせてみる。

板書例

① P.72 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「比喻で広がる言葉の世界」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P.73-76 を生徒に音読させる。
 ④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 ・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導。

⑤ 板書の発表を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.72 の漢字テスト
題材	「比喻で広がる言葉の世界」
目標	「比喻について理解し、言葉についての考えを深めよう。」
課題	「比喻についてまとめ、比喻をつかってみよう。」
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	*教科書 P.73-75 参照 *進んでいる生徒に板書させる

(1) 比喻とは

P.74
 「ある事柄を、似たところのある別の事柄で表すこと。」

(2) 比喻の効果は、

① 比喻には、形状をわかりやすく伝える効果がある。

② 比喻には、物事の特徴をより生き生きと印象づける効果もある。

「まるごと」
 「～ようだ」
 「～みたいだ」
 「～は○○○○だ」

(3) 比喻を使ってみよう

まとめ 比喻を使うことで、わかりやすく印象に残る表現ができる。

振り返り ↓ワークシートに一行で記述。

次時 P.77-79。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P.77-79 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「言葉1 指示する語句と接続する語句」(第1時/全1時間)

目標 指示する語句と接続する語句の働きを知ることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.76 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「言葉1 指示する語句と接続する語句」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 指示する語句と接続する語句の働きを知ろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書P.77-79を生徒に音読させる。3-4分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒をほめ、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。 ⑤ 板書の発表を皆で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・板書と自分のワークシート記述を比較し、確認する。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.73-76の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・指示する言葉(こそあど言葉)をまとめる中で、近称、中称、遠称、不定称を感じさせる。
- ・接続する語句の種類をまとめさせる。
- ・接続する語句の使い方、書き手の気持ちが表れること、表すことができることを知らせる。

板書例

① P.76 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「指示する語句と接続する語句」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P.77-79 を生徒に音読させる。
 ④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 ・進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導。

⑤ 板書の発表を皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見
月 日	「比喩で広がる言葉」の漢字テスト 「指示する語句と接続する語句」	指示する語句と接続する語句の働きを知ろう。	指示する語句と接続する語句の働きをまとめる。	ワークシートに記述	
<p>先生の意見 *教科書 P.77-79 参照 *進んでいる生徒に板書させる (1) 指示する語句 (こそあど言葉) (2) 接続する語句</p> <p>*教科書 P.77 下段表参照</p> <p>(3) 使い方で書き手の気持ちが出る</p> <p>*P79L14-15 参照</p> <p>*教科書 P.78-79 下段〜上段表参照</p>					
<p>まとめ 指示する言葉は代入の X。接続する語句は、構成の手がかり。 振り返り ↓ワークシートに一行で記述。</p> <p>次時 P.80-81。次週 P.82-94。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べていく。</p>					

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P.80-81。次週はP.82-94を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名発表させる。

題材名 「言葉を集めよう もっと『伝わる』表現を目ざして」(第1時/全1時間)

目標 紹介するものを決め、その良さが伝わるように工夫して書くことができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 79 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「言葉を集めよう もっと『伝わる』表現を目ざして」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 紹介するものを決め、その良さが伝わるように工夫して書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 80-81 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒をほめ、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。 ⑤ ワークシート(3)の発表をさせる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・指名を受けて発表する。 ・積極的に発表する。
終了 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 82-94 の学習をします。・次時に使うので、好きな本を一冊持参させる。 毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・友達に紹介したい自分のものを決めさせる。
- ・紹介したいものを表現する観点(見方・視点)を3~4つ見つけ、それぞれを表現する言葉を記述させる。
- ・そのものの良さが伝わるよう100~200字程度で紹介文を書かせる。
- ・次時に使うので、好きな本を一冊持参させる。

板書例

① P.79 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「言葉を集めよう」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 80-81 を生徒に音読させる。
④ ワークシート(1)(2) (3)に取り組みさせる。
・机間指導して、進んでいる生徒をほめ、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。

⑤ ワークシート(3)の発表をさせる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見
月 日	「指示する語句と接続する語句」の漢字テスト 「言葉を集めよう」	「言葉を集めよう」	紹介するものを決め、その良さが伝わるように工夫して書く。	紹介したいものを決め、いくつかの観点から紹介文を書く。	ワークシートに記述

友達の見解
(1) 紹介したいもの (3) 紹介文 100〜200字

(2) 観点を3〜4決め、言葉を集める
<ul style="list-style-type: none"> 見た感じ 聞いた感じ 触った感じ 香り 触った感じ 性格・性質 味 かじった感じ 持った感じ

まとめ
観点をいくつか決めると紹介しやすい。

振り返り
↓ワークシートに一行で記述。

次時
P. 82-94。好きな本を一冊持参。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 82-94 を学習します。・次時に使うので、好きな本を一冊持参させる。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「読書を楽しむ」(第1時/全1時間)

目標 友達などに本を紹介するポップ(一目で本の魅力を伝える)広告を作ることができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.81 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「読書を楽しむ」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 友達に本を紹介するポップ(一目で本の魅力を伝える)広告を作ろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書P.82-83を生徒に音読させる。2-3分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、個別指導を行う。進んでいる生徒に板書に貼らせる。進んでいない生徒には、発表を参考にさせる。 ⑤ できたポップを机の上に置いて、みんなのポップを見て回らせる。一巡したら、良かったポップをあげさせる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・進んでいる生徒は板書に貼る。 ・進んでいない生徒は、貼り出されたポップを参考にする。 ・できたポップを巡回して見て回る。良かったポップをあげる。
終了 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.84-94の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・ポップにする本は、P.84-93の中から選んでもよいし、今までに自分が読んだものでもよい。
- ・まず、本を選定→情報の収集・整理→ポップ作り
- ・できたポップを巡回で見させて、良い物を生徒の声であげさせる。できれば良かった点も発表させる。

板書例

① P.89 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「読書を楽しむ」題材名、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P.82-83 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 ④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、個別指導を行う。進んでいる生徒に板書に貼らせる。進んでいない生徒には、発表を参考にさせる。

⑤ 作製したポップを自分の机の上に広げさせ、生徒に巡回閲覧させる。

日付	月 日
復習	P.89 の漢字テスト 「読書を楽しもう」
題材	友達に本を紹介するポップ（目で本の魅力を伝える）広告を作ろう。
目標	本を選び、情報を整理し、ポップを作ろう。
課題	友達に本を紹介するポップ（目で本の魅力を伝える）広告を作ろう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の見解	*進んで作製できた生徒のポップを計時しても良い。 *ポップ作製後、巡回閲覧し、良い物から学ぶ。
まとめ	絵が上手な人はその技能もポップには生かせる。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P.84-94。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P.84-94 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名発表させる。

題材名 「本の中の中学生」「本の世界を広げよう」「本との出会い」「季節のしおり夏」(第1時/全1時間)

目標 読書が、知識・情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに気づくことができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 81 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「本の中の中学生」・・・などを板書する。 ・本時の目標を板書する。 読書が、知識・情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに気づこう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 84-94 を生徒に音読させる。15-16 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ・P. 84-89 の三つの作品から一つ選ばせ、ポップを作る事を予告しておく。 ④ 課題を斉唱させ、P. 84-89「あと少し、もう少し」「西の魔女が死んだ」「ブラインドの向こうに見える光」の中から一つを選び、前時に作製したようにポップを作る。できた生徒は板書に貼る。 ・前時に学習したポップ作りをここでもう一度実践する。前時の完成がまだの者は完成させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・音読中に、一つの作品を選んでおく。 ・選んだ作品のポップを作る。できたら板書に貼る。
終 3分	⑤ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 84-94 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・生徒の音読時は巡回して、難解語句のある生徒には個別指導を行う。
- ・音読後はポップを作るので、音読時に三作品から一つを選んでおくよう予告しておく。
- ・前時に学習したポップ作りをここでもう一度実践する。前時の完成がまだの者は完成させる。

板書例

① P.81 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「本の中の中学生」「本の世界」など題材名、本時の目標を板書する。

③ P.84-94 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 ・P.84-89 の三つの作品から一つ選び、ポップを作る事を予告しておく。

④ 三作品から一つを選んで、ポップ作りをする。

日付	月 日
復習	「言葉を集めよう」の漢字テスト
題材	「本の中の中学生」「本の世界」「本との出会い」「季節のしおり夏」
目標	読書が、知識・情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに気づかせる。
課題	読書に親しみ、作品を選んでポップを作る。
自分の意見	音読しながら（聞きながら）教科書に書き加えても良い。
友達の意見	* 完成した生徒のポップを貼り出す。

まとめ
 読書なしの人生は視野を狭くし、その価値をくする。
 振り返り
 日本の学校での朝の読書は楽しかった。
 次時
 P. 84-94。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑥ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 84-94 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑤ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名発表させる。

題材名 「大人になれなかった弟たちに……」①（第1時／全2時間）

目標 描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 89 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「大人になれなかった弟たちに……」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 96-105 を生徒に音読させる。8-10 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。）</p> <p>⑤ 板書された発表を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較しながら、確認する。
終 3分	<p>⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P96-105 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・登場人物の概要をつかませる。場面毎に登場人物がやったことなどをまとめさせる。
- ・戦争中の国内に残された人々の生活を脚注などを参考にしながら、補足する。

板書例

① P.89 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「大人になれなかった弟たちに……」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 96-105 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 ④ ワークシート(1)(2)に取り組ませる。
 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。

⑤ 板書に発表された人物等について、皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の見
月 日	P.89 の漢字テスト	「大人になれなかった弟たちに……」	描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。	登場人物、時代、場所、生活などをまとめよう。 *ワークシートに記述。	*生徒の記述	<p>(1) 登場人物 僕 国民学校四年。弟のミルクを盗み飲み。 弟 (ヒロユキ) 生まれたばかり。栄養失調で亡くなった。 父 戦争に行っている。 母 家族を守っている。働いているがあまり食べない。 祖母 一緒に疎開。 妹 一緒に疎開。 親戚 疎開を断ってきた。 親切な人 疎開を許可してくれ、弟の棺も作ってくれた</p> <p>(2) 時代、場所、生活、出来事 自宅 空襲、防空壕、食料不十分、配給、お乳が出ない、 田舎の親戚 疎開の依頼を断る、「うちに食べ物は無い。」 疎開先 (石釜) 親切な方が疎開を了承。 溪流、美しい青空、桃の花、桃源郷。 母の着物はお米やヤギの乳を交換し、無くなった。ヒロユキ は栄養失調で亡くなった。</p>

まとめ 戦争の時代においては、国内の家族の生活もとても厳しい。
振り返り *ワークシートに記述。
次時 P. 96-105。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べ
 てくる。

⑨ 次時の予告をする。

「次時は、P. 96-105 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。肯定的な者の数名発表させる。

題材名 「大人になれなかった弟たちに……」②（第2時／全2時間）

目標 描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えることができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 89 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。* 書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「大人になれなかった弟たちに……」を板書する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を板書する。 <p>描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 96-105 を生徒に音読させる。8-10 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする板書された発表を皆で確認させる。 <p>④ ワークシート(3)に取り組みさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 <p>⑤ 板書された発表を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表とワークシートを確認する。 ・ワークシートに取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較しながら、確認する。
終 3分	<p>⑥ 振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 <p>⑦ 次時の予告をする。</p> <p>「次時は、P106-115 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・母が食べ物あまり食べなかった理由や僕がミルクを盗みのみした理由を考えさせる。
- ・母の顔を「強い顔」「悲しい顔」「美しい顔」と思った僕の心情を考えさせる。
- ・題名の「大人になれなかった弟たちに……」の意味（作者が込めた思い）を考えさせる。

板書例

① P.89 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「大人になれなかった弟たちに……」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 96-105 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ ワークシート(1)(2)に取り組ませる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は巡視し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。

- ⑤ 発表された板書を皆で確認させる。
- ⑥ ワークシート(3)に取り組ませる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑦ 発表された板書を皆で確認させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	まとめ	振り返り	次時
月 日	P.89 の漢字テスト	「大人になれなかった弟たちに……」	描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。	描写に着目して登場人物の心情や題名の意味を考えよう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。 ① 母の理由↑*生徒の記述 ② 僕の理由↑*生徒の記述	(2) 次の場面の僕や母の心情（気持ち）を考えよう。 ① P. 99,9-10 「強い顔でした。」「悲しい悲しい顔でした。」「美しい顔を見たことはありません。」 ↓*生徒の記述 ② P. 101,3 「馬車の上で……桃源郷でした。」 ↓*生徒の記述 ③ P. 103,11 「母は初めて泣きました。」 ↓*生徒の記述	戦時下の家族の苦しみや悲しみも、戦争の惨禍であり、忘れてはならない。 *ワークシートに記述。	P. 106-115。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P. 106-115 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

題材名 「星の花が降るころに」①（第1時／全3時間）

目標 場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.105 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「星の花が降るころに」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めよう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.106-115 を生徒に音読させる。10-11 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書された発表を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較しながら、確認する。
終了 3分	<p>④ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑤ 次時の予告をする。 「次時は、P106-115 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・作品の大きな四場面毎に、「いつ」「どこで」「誰と」をまとめる。
- ・四場面毎に、「私」の心情（気持ち）をつかませ、変化をとらえさせる。

板書例

① P.105 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「星の花が降るころに」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 106-115 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 ④ ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。

⑤ 板書に発表された人物等について、皆で確認させる。

日付 月 日 P.89 の漢字テスト	復習 「星の花が降るころに」	題材	目標 描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。	課題 四場面について、いつ・どこで・誰などをまとめ、「私」の心情の変化をとらえる。	自分の意見 *ワークシートに記述。	友達の意見 *ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。 (1) 四場面のいつ、どこで、誰と誰のまとめ。 ① *生徒の記述 ② ③ ④	(2) 四場面毎の「私」の心情（気持ち） ① *生徒の記述 ② ③ ④	まとめ 友人関係を成長させようとする「私」を感じられた。 振り返り *ワークシートに記述。	次時 P. 106-115。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。
------------------------------	-----------------------	-----------	-------------------------------------	--	--------------------------	---	---	--	---

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 106-115 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「星の花が降るころに」②（第2時／全3時間）

目標 場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 105 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「星の花が降るころに」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 106-115 を生徒に音読させる。10-11 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書された発表を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較しながら、確認する。
終了 3分	<p>④ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑤ 次時の予告をする。 「次時は、P. 106-115 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・同じ物や同じ場所が出てくる場面を比較して、心情の変化をとらえさせる。
- ・「私」の登場人物への心情の変化をとらえさせる。

板書例

① P.105 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「星の花が降るころに」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 106-115 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 ④ ワークシート(1)(2)に取り組ませる。
 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。

⑤ 板書に発表された人物等について、皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の見解
月 日	P.88 の漢字テスト	「星の花が降るころに」	描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。	同じ物の描写を比較して、「私」の心情の変化をとらえよう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
						(1) 同じ物・場面の描写の比較。*生徒の記述
						① 「銀木犀」
						② 「お守り見たいな小さなビニール袋」
						③ 『あたかも』という言葉
						(2) 「私」の心情の変化 *生徒の記述
						① 夏実に対して
						② 戸部君に対して
						③ 銀木犀に対して
						④ 自分に対して
						まとめ 同じのものや人物でも、理解が深まると気持ちも変わってくる。
						振り返り *ワークシートに記述。
						次時 P.106-115。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べよう。

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P.106-115 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「星の花が降るころに」③（第3時／全3時間）

目標 場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 105 の新出漢字や注意語句の中から5問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「星の花が降るころに」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 場面と場面、場面と人物などの描写を結びつけて読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 106-115 を生徒に音読させる。10-11 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書された発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書と自分のワークシートを比較しながら、確認する。
終了 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 116-117 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・作品の「私」「夏実」「戸部」などとの関係がどうなっていくか、作品の続きを考えさせる。
- ・同年代の登場人物の成長を一つの事例として、自分の成長と結びつけて考えさせたい。

板書例

① P.105 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「星の花が降るころに」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 106-115 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書された生徒の意見を皆で検討させる。

日付	月 日
復習	P.105 の漢字テスト
題材	「星の花が降るころに」
目標	描写を基に、登場人物の行動や心情の変化を捉えよう。
課題	教科書の物語の続きを考えよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の見解	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
	(1) 「私」と「夏実」はどうなる。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
	(2) 「私」と「戸部君」はどうなる。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
	(3) 「私」はどうなる。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
まとめ	戸部君や夏実さんと仲直りし、また親密になるだろう。小さなトラブルを乗り越えると成長できる。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P.116-117。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 116-117 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる数名に発表させる。

題材名 「聞き上手になろう」(第1時/全1時間)

目標 聞いたことを基に考え、質問のしかたを工夫して聞けることができる。

領域名 言葉 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 115 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「聞き上手になろう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 聞いたことを基に考え、質問のしかたを工夫して聞こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 116-117 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。)) ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書された発表を皆で確認させる。</p> <p>④ 二人一組をつくり、話し手役と聞き手役になり、「夏休みの思い出」をスピーチさせ、工夫した質問をして話を引き出す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・ワークシートと比較する。 ・対話の練習をする。三往復以上を目標とする。
終 3分	<p>⑤ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 118-120 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・きき方の工夫や質問の種類をまとめさせる。
- ・きき方の工夫や質問の種類を活用して、対話の練習をさせる。

板書例

① P.115 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「聞き上手になろう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.116-117 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書された生徒の意見を皆で検討させる。
- ⑥ ワークシート(3)に取り組みさせる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の見	まとめ	振り返り	次時	
月 日	P.115 の漢字テスト	「聞き上手になろう」	聞いたことを基に考え、質問のしかたを工夫して聞く。	きき方の工夫や質問の種類を知って、対話の練習をしよう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。 (1) 【きき方の工夫】 *生徒の記述 ④ ③ ② ①	(2) 【質問の種類】 *生徒の記述 ② ① *質問の順番①↓②	(3) 【対話練習】 三往復以上を目標に。	きき方の工夫をしながら、絞る質問から広げる質問をする。 *ワークシートに記述。	P.118-119。次週P.120。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
 「次時は、P.118-119。次週はP.120 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「項目を立てて書こう」①（1時／全2時間）

目標 相手に必要な情報が明確に伝わるように、情報を整理して書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 115 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「項目を立てて書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 相手に必要な情報が伝わるように、情報を整理して書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 118-119 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)(4)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)～(4)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書発表を確認する。
終了 3分	④ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑤ 次時の予告をする。 「次時は、P. 120 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「何を」「何のために」「だれに」つたえるのかを明確にして、情報を整理できるようにする。
- ・必要な情報を届けたい相手の立場に立って、案内文を作成する基礎を理解させる。

板書例

① P.115 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「項目を立てて書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 118-119 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)～(4)に取り組ませる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書された生徒の意見を皆で検討させる。

日付	月 日	復習	P.115 の漢字テスト	題材	「項目を立てて書こう」	目標	相手に必要な情報が伝わるように、情報を整理して書こう。	課題	相手を想定し、必要な情報が分かりやすい案内状を書こう。	自分の意見	*ワークシートに記述。	友達の意見	
(1) 【必要な情報】		(2) 【主な案内の相手】		(3) 【表現の工夫】		(4)							
① 行事名		① 家族	注意点	① 簡条書き		ア							
② 期日、時間設定		② 小学生	注意点	② 図表・マップ		イ							
③ 場所、会場概略		③ 地域の方々	注意点	③ 文字のフォント・大きさ		ウ							
④ 持ち物、注意点				④ 文面の装飾		エ							
⑤ 来てほしい気持ち						オ							
*その他						カ							

まとめ 相手によって案内に必要な情報を加工する必要がある。

振り返り *ワークシートに記述。

次時 P.120。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P. 118-119。次週は P. 120 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「項目を立てて書こう」②（2時／全2時間）

目標 相手に必要な情報が明確に伝わるように、情報を整理して書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 115 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「項目を立てて書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 相手を想定し、必要な情報が分かりやすい案内状を書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 118-119 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑤ ワークシートに取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒には、板書に貼りださせる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑥ 板書の発表を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・紙面が不足するので、ワークシートの裏面を使用させる。 ・板書発表を確認する。
終了 3分	<p>⑦ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 120 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・必要な情報が整理され、伝える相手がわかりやすい文面となるようにさせる。
- ・図やフォントなどの装飾も工夫させる。良い案内文の生徒の作品を皆で認める活動があると良い。

板書例

① P.115 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「項目を立てて書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 118-119 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ ワークシート(2)に取り組みさせる。できた生徒の作品を貼り出させる。
- ⑥ 貼り出された案内文の良い点を皆で確認させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.115 の漢字テスト	「項目を立てて書こう」	相手に必要な情報が伝わるように、情報を整理して書こう。	相手を想定し、必要な情報が分かりやすい案内状を書こう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
						A さんの案内状 B さんの案内状 C さんの案内状 D さんの案内状
まとめ	必要な情報は書きやすいが、来てほしい気持ちや敬語に注意が必要。					
振り返り	*ワークシートに記述。					
次時	P.120。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。					

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P. 118-119。次週は P. 120 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「推敲 読み手の立場に立つ」(1時/全1時間)

目標 伝えたい事柄が明確に伝わるように、読み手の立場に立って案内文を修正することができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 115 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「推敲 読み手の立場に立つ」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伝えたい事柄が明確に伝わるように、読み手の立場に立って案内文を修正しよう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 120 を生徒に音読させる。1-2 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑤ 板書された発表を皆で確認させる。</p> <p>⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒には、板書に貼りださせる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑦ 板書された発表を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書発表を確認する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・紙面が不足するので、ワークシートの裏面を使用させる。 ・板書発表を確認する。
終了 3分	<p>⑧ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑨ 次時の予告をする。 「次時は、P. 121-122 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・推敲の上達ポイントをまとめさせる。
- ・上達ポイントなどに注意しながら、必要な情報に注意しながら実際の案内文の推敲をさせる。

板書例

① P.115 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「推敲 読み手の立場に立つ」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 120 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書された発表を皆で確認させる。
- ⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。できた生徒の作品を貼り出させる。
- ⑦ 貼り出された案内文の良い点を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.115の漢字テスト 「聞き上手になろう」
題材	相手に必要な情報が伝わるように、情報を整理して書こう。
目標	推敲の上達のポイントを知り、案内文の推敲をしよう。
課題	推敲の上達のポイントを知り、案内文の推敲をしよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。 *ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
友達の意見	*生徒の記述（案内文の推敲ワークシートの貼り出し可） Aさんの意見 Bさんの意見 Cさんの意見 Dさんの意見
まとめ	必要な情報を箇条書きにしていき、注意点などをその他や日程に入れる。 *ワークシートに記述。
振り返り	
次時	P.120。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P. 121-122 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「方言と共通語」(1時/全1時間)

目標 方言と共通語のそれぞれの良さを理解することができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 115 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「読み手の立場に立つ」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 方言と共通語のそれぞれの良さを理解しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 121-122 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書発表を確認する。
終了 3分	⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は P. 123-124。次週は P. 126-135 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・生徒の出身地が様々な場合は、教科書の「捨てる」の言い方を紹介させる等すると良い。
- ・「方言の良さ」とその背景(文化や伝統)、「共通語の必要性」については、理解させたい。

板書例

① P.115 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「読み手の立場に立つ」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 121-122 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1) (2) に取り組ませる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書されたものを皆で確認させる。

日付	月 日	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
		P.115の漢字テスト	「聞き上手になろう」	方言と共通語のそれぞれの良さを理解しよう。	方言の良さと共通語の必要性を見つけよう。	*ワークシートに記述。	(1) 方言の良さ *生徒の記述 *ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
例 *生徒の記述							
(2) 共通語の必要性 *生徒の記述							
まとめ 方言は地域の文化や伝統が生きている。共通語は全国で理解するために必要。 *ワークシートに記述。							
次時 P.123-124。次週はP.126-135。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。							

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.121-122 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「漢字2 漢字の音訓」(1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.122 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「読み手の立場に立つ」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようになろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.123-124 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(4)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒には、板書に出て記述させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑦ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(4)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終了 3分	⑧ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次時は P.126-135 の学習をします。毎日一回以上は音読してきました。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・漢字の音読みは、中国語での発音を元に行っている読み方で、訓読みは、日本人が発音していた読み方であること、同じ熟語でも読み方で意味が違うこと等、事例を通して理解させる。
- ・日頃の漢字練習や読書が大切なことを再度話しておくこと。漢字練習の点検もすることを伝えておく。

板書例

① P.122 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「漢字2 漢字の音訓」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 123-124 を生徒に音読させる。
 ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。
 ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定し、板書発表させたり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書されたものを皆で確認させる。
- ⑥ ワークシート(4)に取り組ませる。できた生徒に板書発表させる。
- ⑦ 板書されたものを皆で確認させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	1	2	3
月 日	P.122 の漢字テスト	「漢字2 漢字の音訓」	漢字を読み書き使用できるようになる。	漢字の音読み訓読みについて理解し、使えるようになる。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。	*生徒の記述		まとめ 振り返り P.126-135。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑨ 次時の予告をする。
 「次時は、P.126-135 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる

題材名 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ ①（1時／全2時間）

目標 筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解することができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.124 の新出漢字や <u>注意語句</u> の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.126-135 を生徒に音読させる。11-12 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。形式段落に番号①～⑰を付けさせる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑥ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑦ ワークシート(2)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒には、板書に出て記述させる。進んでいない生徒には個別指導をする ⑧ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・形式段落に番号を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終 3分	⑨ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑩ 次時の予告をする。 「次時は P.126-135 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・本文の形式段落毎に番号を付け、文章を構成する段落の役割を考えやすくする。
- ・本文が五つの部分（大段落）に分けられる事を知らせ、それぞれの役割を考えさせる。
- ・筆者がどのような事実からどのような仮説を立てたかを確かめさせる。

板書例

① P.124 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 126-135 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 形式段落に番号を付けさせる。
- ⑤ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定し、板書発表させたり個別指導をしたりする。
- ⑥ 板書されたものを皆で確認させる。
- ⑦ ワークシート(2)に取り組みさせる。できた生徒に板書発表させる。
- ⑧ 板書されたものを皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	まとめ
月 日	P.124 の漢字テスト	『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ	筆者の意見とそれを支える根拠との関係を理解しよう。	文章の構成を分析し、仮説と事実の関係を考える。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。	<p>日常のためまない観察から仮説を立て、それを検証していく筆者の姿が素晴らしい。</p> <p>*ワークシートに記述。</p>
							<p>(1) 本文を五つの部分（大段落）に分けよう。</p> <p>1 【前提となる知識】 *生徒の記述</p> <p>2 【研究のきっかけと仮説】</p> <p>3 【仮説の検証1】</p> <p>4 【仮説の検証2】</p> <p>5 【結論】</p> <p>(2) 仮説とその元になる事実</p> <p>【仮説】 ↓ *生徒の記述</p> <p>【事実】 ↓ *生徒の記述</p>

次時 P.126-135。次週はP.136-137。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

振り返り *ワークシートに記述。

まとめ 日常のためまない観察から仮説を立て、それを検証していく筆者の姿が素晴らしい。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P.126-135 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」②（第2時／全2時間）

目標 筆者の論の展開に着目し、その効果を考えることができる。

領域名 情報 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 124 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ』を板書する。 ・本時の目標を板書する。 筆者の論の展開に着目し、その効果を考えよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 126-133 を生徒に音読させる。9-10 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書の発表を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終 3分	<p>④ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑤ 次時の予告をする。 「次時は P. 136-137 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・仮説の検証1・2について、検証の目的・方法・結果・考察・問題点などの観点でまとめさせる。
- ・筆者が行った実験や観察により、なぜ仮説が証明されたといえるのか、考えさせる。

板書例

① P.124 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 126-133 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1) (2)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定し板書させ、板書発表させたり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書されたものを皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.124 の漢字テスト
題材	『言葉』をもつ鳥、シジュウカラ
目標	筆者の論の展開に着目し、その効果を考えよう。
課題	仮説の検証1・2についてまとめ、仮説の証明について考えよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。
観点	(1) 仮説の検証を観点別にまとめる *生徒の記述 仮説の検証1 仮説の検証2
検証の目的	
検証の方法	
結果	
考察・解釈	
問題点	(2) なぜ仮説が証明されたといえるのだろうか。 【仮説】 シジュウカラの「ジャージャー」という鳴き声は、「へび」を意味する「単語」である。 → *生徒の記述
まとめ	一つの実験・観察の結果だけに頼らず複数の考察や解釈をすることで、確かな検証ができる
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P.136-137。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.136-137。を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「原因と結果 思考のレッスン2」(1時/全1時間)

目標 話の筋道を理解するために、原因と結果を整理することができる。

領域名 情報

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.135 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「原因と結果 思考のレッスン2」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 話の筋道を理解するために、原因と結果を整理しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.136-137 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連続読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(3)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒には、板書に出て記述させる。進んでいない生徒には個別指導をする ⑦ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(3)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終 3分	⑧ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次時は P.138-143 の学習をします。毎日一回以上は音読してきました。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・原因と結果のつながりを整理させる。一次の結果が原因になることもあることに注意させる。
- ・話の筋道を整えるチェックポイントを知らせる。
- ・事実を見つける問題や筋道に無理がある話に反論を考える問題に取り組みさせる。

板書例

① P.135 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「原因と結果 思考のレッスン2」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.136-137 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定し、板書発表させたり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書の発表を確認させる。
- ⑥ ワークシート(3)に取り組みさせる。できた生徒に板書発表させる。
- ⑦ 板書された発表を皆で確認させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.135 の漢字テスト	「原因と結果 思考のレッスン2」	話の筋道を理解するために、原因と結果を整理しよう。	原因と結果がどうつながっているか整理しよう。	*ワークシートに記述。	(1) A 町の秋祭りについて原因と結果をまとめよう *ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。 *生徒の記述

- (2) 筋道チェックポイント
*生徒の記述
- (3) 問題1
*生徒の記述

- 問題2
- ③
 - ②
 - ①

まとめ

振り返り

原因と結果が無理なくつながっているかどうか大切。
*ワークシートに記述。

次時 P.138-143。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P.138-143 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」

題材名 「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」①（第1時／全3時間）

目標 根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 137 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「根拠を示して説明しよう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書こう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 138-141 を生徒に音読させる。4-5 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表（途中の場合は音声発表で少し紹介。紙面を貼り出しても可。）させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書の発表を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終了 3分	<p>④ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑤ 次時の予告をする。 「次時は P. 138-143 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・課題を決めさせ、調査結果を整理させて、構成を考えさせる。
- ・グラフ・表等をどう使うか考えさせて、構成に生かさせる。

① P.137 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「根拠を示して説明しよう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 138-141 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1) (2) に取り組ませる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書されたものを皆で確認させる。

日付	月 日	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見	理由
		P. 137 の漢字テスト	「根拠を示して説明しよう」	根拠を明確にし、伝えたいことの中心が明らかになるように、工夫して書く。	レポートの課題を決め、調査結果を整理して、構成を考えよう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に発表する。	
							(1) P142-143 の「資料ア・イ・ウ・エ」から一つを選び、その理由を書こう。	資料↓ ア（人）・イ（人）・ウ（人）・エ（人）
								理由 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
								(2) 選んだ資料から考えられる「課題」「仮説」「調査方法」を考えよう。
								A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見
								まとめ 調査はネットで検索しても良いが、そのデータが信頼できるものか確かめる必要がある。
								振り返り *ワークシートに記述。
								次時 P. 138-143。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べておく。

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P. 138-143 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」②（第2時／全3時間）

目標 根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.137 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「根拠を示して説明しよう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書く。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.138-141 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は 机間指導 して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。進んでいない生徒には、進んでいる生徒のレポートを参照させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・学友の作品を参考にする。
終了 3分	④ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑤ 次時の予告をする。 「次時は P.138-143 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・P140 の例を参照しながら、それぞれが選んだ資料のレポートを作成させる。
- ・生徒が取り組んでいる間は巡視して、進んでいる生徒に板書に貼ってもらう。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ・表やグラフはコピーして貼ってもよいし、写真で撮って、Word に貼っても良い。

板書例

① P.137 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「根拠を示して説明しよう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 138-141 を生徒に音読させる。

- ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ・課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
- ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定し、板書発表させたり個別指導をしたりする。
- ・進んでいない生徒には、進んでいる生徒のレポートを参照させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.137 の漢字テスト	「根拠を示して説明しよう」	根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書く。	課題を決め、調査結果を整理して、構成を考えよう。	*ワークシートに記述。	*ワークシートの進んでいる生徒は板書に貼る。
						A さんのレポート B さんのレポート C さんのレポート D さんのレポート
まとめ						
振り返り						
次時						

る。

P.138-143。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてく

*ワークシートに記述。

資料と考察がむりなくつながっているか、グラフや表は効果的に利用されているか、などを点検する。

⑤ 次時の予告をする。
「次時は、P.138-143 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

④ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「根拠を示して説明しよう 資料を引用してレポートを書く」③（第3時／全3時間）

目標 根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.137 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「根拠を示して説明しよう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">根拠を明確にし、伝えたいことの内容が明らかになるように、工夫して書く。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.140-141 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・それぞれの生徒のレポートを机の上に置いて、2～3分ずつの間隔で巡回して読み合い、評価を記入していく。計時は教師。</p> <p>⑤ ワークシート(2)(3)に取り組みさせる。 ・指名を受けて、友達の良かった点や自分の改善点などを発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組み、巡回しながらレポートを読み合う。 ・学友の作品の良い点を記述する。自分の改善点を書く。
終了 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は P.144 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・友達のレポートを巡回して読み合うことで、それぞれの良さを認めたり、自分の改善点を見つけたりさせる。
- ・教師も巡回し読み合いに入って評価する。

板書例

① P.137 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「根拠を示して説明しよう」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P.140-141 を生徒に音読させる。
・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
・机の上に自分のレポートを置いて、2-3分ずつ読み合い、巡回しながら評価する。自分の改善点も見つける
- ⑤ ワークシート(2)(3)に取り組みさせる。
・指名を受けて、友達の良かった点や自分の改善点などを発表する。

日付 月 日

復習 P.137 の漢字テスト

題材 「根拠を示して説明しよう」

目標 根拠を明確にし、伝えたいことの中心が明らかになるように、工夫して書く。

課題 友達のレポートの良さを見つけ、自分の改善点も見つけよう。

自分の意見 *ワークシートに記述。

友達の意見

(1) レポート発表

*生徒のレポートを貼る

A さんのレポート

B さんのレポート

C さんのレポート

D さんのレポート

(2) それぞれの良さ

A さんのレポートの良さ

B さんのレポートの良さ

C さんのレポートの良さ

D さんのレポートの良さ

(3) 自分の改善点 *自分のワークシートに記述

まとめ 調査結果から無理なく考察がつながることが大切。

振り返り *ワークシートに記述。

次時 P.144。次週P.145-149。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.144 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「漢字に親しもう3」(第1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.137 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「漢字に親しもう3」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.144 を生徒に音読させる。1-2 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。) ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。教科書 P.144 「2 中学校で習う漢字」「3 次の□にあう漢字・・・」を教科書に直接記述させる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書の発表を皆で確認していく。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・教科書の問題に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書の回答と自分の回答を確認する。
終了 3分	⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は P.138-143 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校漢字であっても、読むだけでなく書けるように毎日の練習の大切さを伝えていく。家庭での漢字練習を提出させ点検する事を伝えておく。

題材名 「話し合いの展開を捉える」(第1時/全1時間)

目標 話し合いの目的を明確にし、話題や流れを捉えて議論することができる。

領域名 情報 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.144 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「話し合いの展開を捉える」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 話し合いの目的を明確にし、話題や流れを捉えて議論しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.145 を生徒に音読させる。1-2 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>④ 板書を皆で確認させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書の発表と自分の回答を確認する。
終了 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は P.146-149 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・話し合いの目的やテーマを押さえた上で、現在の議題について整理しながら議論を行う方法を理解させる。

板書例

① P.144 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話し合いの展開を捉える」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 145 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書に発表された回答を皆で確認していく。

日付	月 日	復習	P.144 の漢字テスト	題材	「話し合いの展開を捉える」	目標	話し合いの目的を明確にし、話題や流れを捉えて議論しよう。	課題	目的やテーマを押さえ、議題について整理しながら議論しよう。	自分の意見	*ワークシートに記述。	友達の意見	(1) P.145 を読んで、 *生徒の記述	(2)	P.145 の上段の①と②に入る発言は、 *生徒の記述	(3)	議論上達のポイント *生徒の記述	まとめ	話し合いの目的やテーマから外れないよう司会者も意見を出す人も気をつける。	振り返り	*ワークシートに記述。	次時	P.146-149。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。
----	-----	----	--------------	----	---------------	----	------------------------------	----	-------------------------------	-------	-------------	-------	---------------------------	-----	--------------------------------	-----	---------------------	-----	--------------------------------------	------	-------------	----	--

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「話題や展開を捉えて話し合おう」①（第1時／全3時間）

目標 グループ・ディスカッションを通して、よりよい話し合いの方法を考えることができる。

領域名 情報 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.144 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「話題や展開を捉えて話し合おう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.146-149 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、3～5人グループに分ける。</p> <p>④ ワークシート(1)にグループで話し合いながら取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいるグループの生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑤ ワークシート(2)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。⑦ 板書を皆で確認させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・4人程度が望ましい。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・ワークシート(2)に取り組む。進んでいる生徒は、指名を受けて発表する。 ・板書の回答と自分の回答を確認する。
終 3分	<p>⑧ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑨ 次時の予告をする。 「次時は P.146-149 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・4人程度のグループに分ける。各生徒の特性を考えてグループを作る。
- ・話し合いの話題を決め、目的を明確にさせる。中学一年生の議題として一定の結論が出そうなものにさせる。
- ・「よい話し合い」とは、「自由に意見が出せる」「一定の結論が出る」「皆が納得する」話し合いであることを確認させる。

板書例

① P.144 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話し合いの展開を捉える」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 146-149 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、3～5人のグループを作る。
- ⑤ ワークシート(1)に取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。
- ⑦ 板書に発表された回答を皆で確認させていく。

日付	月 日
復習	P.143 の漢字テスト
題材	「話題や展開を捉えて話し合おう」
目標	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめよう。
課題	グループ・ディスカッションを通して、よりよい話し合いの方法を考えよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	(1) P.146 下段の議題やグループの意見から、議題を決めよう。 *生徒の記述 A グループの記述 B グループの記述 C グループの記述
	(2) P.147 下段の『よい話し合い』とは「から、 *生徒の記述 A グループの記述 B グループの記述 C グループの記述
まとめ	グループで話し合う目的と話題に使われている言葉の意味を共有し、何を目ざして話し合うのかを明確にしておく。 *ワークシートに記述。
振り返り	
次時	P.146-149。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P.146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「話題や展開を捉えて話し合おう」②（第2時／全3時間）

目標 グループ・ディスカッションを通して、よりよい話し合いの方法を考えることができる。

領域名 情報 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.144 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「話題や展開を捉えて話し合おう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.146-149 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、3～5人グループ（前時同様）に分ける。</p> <p>④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒にグループ内で発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑤ 進んでいるグループに議題や意見、その根拠などを発表させ、他のグループの参考にさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・4人程度が望ましい。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。進んでいる生徒はグループ内で発表する。 ・進んでいるグループの生徒は、指名を受けて発表する。
終了 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は P.146-149 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時と同じ4人程度のグループに分ける。各生徒の特性を考えてグループを作る。
- ・話し合いの話題について、各自の意見をワークシートに記述させ、その根拠や目的との整合性も考えさせる。
- ・進んでいるグループに発表させて、他のグループの参考にさせる。

板書例

① P.144 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話し合いの展開を捉える」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 146-149 を生徒に音読させる。
- ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 - ・課題を斉唱させ、3～5人のグループを作る。
- ④ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
- ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒にグループ内で発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 進んでいるグループに議題や意見、その根拠などを発表させ、他のグループの参考にさせる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.144の漢字テスト	「話題や展開を捉えて話し合おう」	「話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめさせる。」	「議題にそった自分の意見をまとめ、その根拠を考えよう。」	*ワークシートに記述。	
					(1) グループで決めた議題について、自分の意見を考えよう。 *生徒の記述 A グループの記述 B グループの記述 C グループの記述	
					(2) 自分の意見を支える根拠を考えよう。複数あると良い。 *生徒の記述 A グループの記述 B グループの記述 C グループの記述	
					(3) 自分の意見や根拠は、話し合いの目的に合っているか。 *生徒の記述 A グループの記述 B グループの記述 C グループの記述	
					まとめ 自分の意見とその根拠は、話し合いの目的に合っているかを考える。	
					振り返り *ワークシートに記述。	
					次時 P.146-149。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べておく。	

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「話題や展開を捉えて話し合おう」③（第3時／全3時間）

目標 グループ・ディスカッションを通して、よりよい話し合いの方法を考えることができる。

領域名 情報 A 話すこと・聞くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.144 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「話題や展開を捉えて話し合おう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめよう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.146-149 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、全時同様の3～5人グループに分ける。</p> <p>⑤ ワークシート(1)に取り組ませる。*司会・記録役を決める。</p> <p>⑥ 話し合い活動を行わせ、ワークシート(2)(3)に概要を記述させる。 20分。</p> <p>⑦ 話し合い終了後、それぞれのグループの概要を発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・4人程度が望ましい。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・司会役・記録役を決めて話し合い活動を行う。ワークシート(2)(3)に取り組む。 ・グループの概要を発表する。
終了 3分	<p>⑧ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑨ 次時の予告をする。 「次時は P.146-149 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時と同じ4人程度のグループに分けさせ。各生徒の特性を考えてグループを作れるよう指導する。
- ・司会役、記録役、発表役を決めさせ、話し合い活動を実施させる。時間の20分は必ず予告する。

板書例

① P.144 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「話し合いの展開を捉える」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 146-149 を生徒に音読させる。
・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、前時同様 3～5 人のグループを作る。
- ⑤ ワークシート(1)に取り組みせる。司会・記録・発表役を決める。
- ⑥ 話し合い活動を実施させる。20分。ワークシート(2)(3)に取り組みせる。
- ⑦ 話し合い終了後、それぞれのグループの概要を発表させる。

日付	月 日
復習	P.144 の漢字テスト
題材	「話題や展開を捉えて話し合おう」
目標	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめよう。
課題	グループ・ディスカッションを通して、よりよい話し合いの方法を考えよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	<ul style="list-style-type: none"> (1) 司会役、記録役、発表役を決めよう。 (2) 話し合いの大筋を記録しよう。 (3) 話し合いの結論、根拠を報告しよう。 <p>*結論が出ない場合は途中でも *生徒の記述</p> <ul style="list-style-type: none"> A グループの発表 B グループの発表 C グループの発表
まとめ	話し合いでは、話すだけでなく意見を付箋に書いて貼り出すと 意見の比較や分類がやりやすくなり、整理しやすくなる。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P. 150-152。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P. 146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「大阿蘇」「季節のしおり秋」(第1時/全1時間)

目標 言葉の響きやリズムを味わいながら朗読することができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.144 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「大阿蘇」「季節のしおり秋」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 情景を想像し、言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.150-152 を生徒に音読させる。3-4 分程。 ・日本地図で阿蘇の位置を確認する。阿蘇の写真があれば、掲示して見せてあげる。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(3)に取り組みさせる。 ・机間指導して朗読を聞き、上手な組は発表させる。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・阿蘇の位置や写真を参照する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(3)に取り組む。 指名を受けて生徒は発表する。
終了 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P.154-157 の学習をします。毎日一回以上は音読してきました。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「大阿蘇」の文末の「～いる」の繰り返しリズムを作っているため、朗読する際に注意させる。
- ・「不思議もないだろう」の文末を持つ一行の意味を考えさせる。
- ・「季節のしおり秋」で「月の影」は「月の光」のこと。「山月記」(さんげつき)。

板書例

① P.144 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 150-152 を生徒に音読させる。
・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
④ ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
⑤ 板書の発表を皆で確認させる。
⑥ 二人一組を作らせ、ワークシート(3)に取り組みさせる。

日付	月 日
復習	P.144の漢字テスト
題材	「大阿蘇」「季節のしおり秋」
目標	情景を想像し、言葉の響きやリズムを味わいながら朗読しよう。
課題	情景を想像し、言葉の響きやリズムを味わい朗読し合おう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	
	(1) 「大阿蘇」の作者名、「大阿蘇」のリズムを作っている部分を見つけよう。 *生徒の記述
	(2) 「季節のしおり 秋」の「月にまつわる言葉」を書きだそう。 *生徒の記述
	(3) 二人一組になり、「大阿蘇」と「季節のしおり 秋」の朗読を交互に行おう。
まとめ	朗読は、音読より情景や心情を表せるように気持ちを込めて読むこと。 *ワークシートに記述。
振り返り	
次時	P.154-157。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P.146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「いろは歌」「古典の世界」(第1時/全1時間)

目標 代表的な古典の作品を知り、古文の言葉の響きや調子に読み慣れることができる。

領域名 言語文化

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 151 の新出漢字や <u>注意語句</u> の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「いろは歌」「古典の世界」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 代表的な古典の作品を知り、古文の言葉の響きや調子に読み慣れよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 154-157 を生徒に音読させる。4-5 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連続読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(3)に取り組みさせる。 ・机間指導して朗読を聞き、上手な生徒は発表させる。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・阿蘇の位置や写真を参照する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(3)に取り組む。 指名を受けて生徒は発表する。
終 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P. 158-169 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・代表的な古典の作品名をまとめさせる。
- ・「いろは歌」の上段、中段、下段を横に流して読み進むよう指導する。
- ・「歴史的仮名遣い」を「現代仮名遣い」に直しながら読む中段が通常の「いろは歌」の読み方であることを知らせる。
- ・「いろは歌」は、順繰りに対面して読み合うこと等により、何度も読ませ暗唱できるようにさせる。

題材名 「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」①（第1時／全2時間）

目標 竹取物語の概略を知り、仮名遣いや古語に注意して古典の世界に親しむことができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 151 の新出漢字や<u>注意語句</u>の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">竹取物語の概略を知り、仮名遣いや古語に注意し、古典の世界に親しむ。</div> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 158-169 を生徒に音読させる。12-14 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句や歴史的仮名遣いには□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字や語句は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書とワークシートを確認する。
終 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は P. 158-169 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「かぐや姫」の話が「竹取物語」だと教える。補習校が長い生徒は知らない者もいる。
- ・教科書を一通り読むことで竹取物語の概略を知らせる。くらもちの皇子の話はその一部。
- ・三カ所ある古文の部分について、「歴史的仮名遣い」→「現代仮名遣い」に直させる、「古語」を現代語に意味変換させる。

板書例

① P.151 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 158-169 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1) (2)に取り組ませる。
 - ・進んでいる生徒には、板書に発表させる。進んでいない生徒には、個別指導する。
- ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。

日付	月 日	復習	P.144の漢字テスト	題材	「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」	目標	竹取物語の概略を知り、仮名遣いや古語に注意して古典の世界に親しむ。	課題	竹取物語の概要を知り、仮名遣いに注意し、古文を音読しよう。」	自分の意見	*ワークシートに記述。	友達の意見	(1) 「竹取物語」の概略を知ろう。 *生徒の記述	(2) 歴史的仮名遣いや古語を見つけ、現代仮名遣いや現代的意味に変換しよう。 *生徒の記述	まとめ	「竹取物語」は現存する日本最古の物語。かぐや姫のお話。 *ワークシートに記述。	振り返り	*ワークシートに記述。	次時	P. 158-169。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。
-----------	-----	-----------	-------------	-----------	-------------------	-----------	-----------------------------------	-----------	--------------------------------	--------------	-------------	--------------	------------------------------	--	------------	--	-------------	-------------	-----------	---

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 158-169 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」②（第2時／全2時間）

目標 竹取物語の概略を知り、仮名遣いや古語に注意して古典の世界に親しむことができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 151 の新出漢字や<u>注意語句</u>の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>仮名遣いや古語に注意し、古典の世界に親しむ。</p> </div> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 158, P. 160-131, P. 164（古文の部分）を生徒に音読させる。5-6分程。</p> <p>・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにさせる。※</p> <p>・わからない漢字や語句や歴史的仮名遣いには□を付けるようにさせる。</p> <p>・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。10分程。</p> <p>・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、よく読めている生徒は褒める。よく読めない生徒には、個別指導をする。</p> <p>④ ワークシート(2)に取り組みさせる。</p> <p>・生徒が音読発表し合っているときに机間指導して、評価の一助とする。⑥ 音読の上手だった生徒を挙げさせ、了承を得て発表させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字や語句は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・なるべく回数多く音読する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・歴史的仮名遣いに注意し、リズムよく音読する。 ・認められた生徒は発表する。
終 3分	<p>⑦ 振り返らせる。</p> <p>・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑧ 次時の予告をする。</p> <p>「次時は P. 170-174 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・古文を音読することに慣れさせる。生徒が音読練習をしているときは、巡回して褒めたり個別指導したりする。
- ・練習した古文の音読を発表させることにより、古文の読み方の向上にモチベーションを高める。

板書例

① P.151 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 158, P. 160-131, P. 164（古文の部分）を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)の音読練習に取り組ませる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は巡視して、よく読めている生徒は褒める。よく読めない生徒には、個別指導をする。
- ⑤ ワークシート(2)に取り組ませる。
 - ・机間指導して、評価の一助とする。
- ⑥ 生徒の推薦を受けて、代表者に音読発表させる。

日付	月 日
復習	P.144の漢字テスト
題材	「蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から」
目標	竹取物語の概略を知り、仮名遣いや古語に注意して古典の世界に親しむ。
課題	竹取物語の概要を知り、仮名遣いに注意し、古文を音読して慣れよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の見	(1) 「竹取物語」の古文の部分を選び、何度も読んで読み慣れよう。 ①P.158 上段の古文「今は昔くあたり」+P.164「御文く伝へたる」 () 人 ②P.160-161の古文「これやく来たるなり。」 () 人 一回()人、二回()人、三回()人、四回()人、五回()人 六回()人、七回()人、八回()人、九回()人、十回()人 (2) 友達に練習した古文の読みを聞いてもらおう。 *生徒は巡回音読
まとめ	読む練習をすると区切り方などが分かり、読みやすく分かります。 やすくなる。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P.170-174。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P.146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「今に生きる言葉」(第1時/全1時間)

目標 漢文の基礎と故事成語の例を知り、音読して独特のリズムに親しむことができる。

領域名 言語文化 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 168 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「今に生きる言葉」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 漢文の基礎と故事成語の例を知り、独特のリズムに親しもう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 170-174 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。要辞書。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ P. 171 「矛盾」の漢文を音読させる。何回読めたか、確認する。 ・巡回して音読の上手な生徒に、音読を発表させる。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書を見て確認する。 ・「矛盾」を音読する。 ・指名を受けて音読発表する。
終 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P. 176-185 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・漢文の基礎となる「白文」「訓読文」「書き下し文」の具体例をまとめさせる。
- ・代表的な故事成語「推敲」「蛇足」「四面楚歌」の読み方、意味、基になった故事などをまとめさせる。
- ・「矛盾」の音読を繰り返させ、漢文独特のリズムを体感させる。

板書例

① P. 168 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 170-174 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ ワークシート(1) (2)に取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。
- ⑥ P. 171 「矛盾」の漢文を音読させる。何回読めたか、確認する。
 - ・巡回して音読の上手な生徒に、音読を発表させる。

日付	月 日	復習	P. 168 の漢字テスト	題材	「今に生きる言葉」	目標	漢文の基礎と故事成語の例を知り、音読して独特のリズムに親しもう。	課題	漢文の「白文」「訓読文」「書き下し文」の違いや代表的な故事成語を調べ、「矛盾」の音読をしよう。	自分の意見 友達の意見	*ワークシートに記述。
		(1) P. 174 「漢文を読む」									*生徒の記述
		①									(2) 故事成語の読み・意味・基になった故事 *生徒の記述
		②									
		③									
											(3) P. 171 の「矛盾」の古文を音読しよう。
											まとめ 推敲など故事成語と知らないでも使っている言葉は多い。
											振り返り *ワークシートに記述。
											次時 P. 176-185。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 176-185 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 『不便』の価値を見直す」①（第1時／全3時間）

目標 文章の内容を捉え、筆者の考えを要約することができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 172 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 * 書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名『不便』の価値を見直す」を板書する。 ・ 本時の目標を板書する。</p> <p>「不便益」の定義を捉え、「不便のよい面」「便利の悪い面」の意味や事例をまとめよう。 ・ 声を合わせて読ませる。 ・ ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・ 本時の目標を知る。 ・ 声を合わせて目標を読む。 ・ 目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 176-185 を生徒に音読させる。11-12 分程。 ・ 「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・ わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・ 生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。形式段落に番号を付けさせる。①～⑩</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・ 生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。⑥ 板書の発表を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の順番に注意し、音読する。 ・ 読めない漢字は、素直に聞く。 ・ 読めない、わからない語句に□を付ける。 ・ 形式段落に番号を付ける。 ・ 課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。 ・ 進んでいる生徒は発表する。 ・ 板書を見て確認する。
終了 3分	<p>⑦ 振り返らせる。 ・ 本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑧ 次時の予告をする。 「次時は P. 176-185 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一行感想を書いて、数名発表。 ・ 次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・ 「不便益」の定義を捉え、「不便のよい面」「便利の悪い面」の意味や事例をまとめさせる。
- ・ 筆者の主張（結論）を記述している部分を見つけさせる。

板書例

① P. 172 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 176-185 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 形式段落に番号を付けさせる。①～⑥
- ⑤ ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑥ 板書の発表を皆で確認する。

日付	月 日	復習	P. 172 の漢字テスト	題材	「不便」の価値を見つめ直す」	目標	必要な情報をまとめ、筆者の主張を要約する。 「不便」の定義を捉え、「不便のよい面」「便利の悪い面」の意味や事例をまとめ、結論を見つけよう。	課題	「不便益」の定義を形式段落⑤から書き出そう。 「不便益」＝ *生徒の記述	自分の意見 友達の意見	(1) 「不便益」の定義を形式段落⑤から書き出そう。 「不便益」＝ *生徒の記述	② 「便利の悪い面」意味↓ 事例↓	(2) 「不便のよい面」「便利の悪い面」の意味や事例をまとめよう。 ① 「不便のよい面」意味↓ 事例↓ *生徒の記述	③ 筆者が主張すること（結論）は、どの形式段落に書かれているか。 *生徒の記述	まとめ	人間の生活には、「便利」＝よいこと、「不便」＝悪いこと、だけでは判断できないことがある。	振り返り	*ワークシートに記述。	次時	P. 176-185。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べつく
----	-----	----	---------------	----	----------------	----	--	----	---	----------------	---	----------------------	--	--	-----	--	------	-------------	----	---------------------------------------

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 176-185 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 『不便』の価値を見直す②（第2時／全3時間）

目標 文章の内容を捉え、筆者の考えを要約することができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.172 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名『不便』の価値を見直す』を板書する。 ・本時の目標を板書する。 必要な情報を取り出し、筆者の考えを要約する。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.176-185 を生徒に音読させる。11-12 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。5分程 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる（貼ってもよい）。進んでいない生徒には個別指導をする。 ・板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・形式段落に番号を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を確認する。
終了 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P.176-185 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「学習の窓」の「目的に応じて要約する」から、要約する方法を知らせる。
- ・『不便』の価値を見つめ直す』の筆者の考え（主張）を要約させる。
- ・他の生徒の要約の発表を受けて、その良さを認め、自分の要約を改善させる。

板書例

① P. 172 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 176-185 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ ワークシート(1)に取り組ませる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。
- ⑥ ワークシート(2)に取り組ませる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
 - ・板書の発表を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	P. 172 の漢字テスト
題材	『不便』の価値を見直す
目標	必要な情報をまとめ、筆者の主張を要約する。
課題	要約する方法を知り、筆者の考えを要約しよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	

(1) P. 184-185 下段の「学習の窓」の【要約するときには】から要約方法をまとめよう。

- ① *生徒の記述
- ② *生徒の記述

(2) 筆者の考えを二百字程度に要約しよう。

- A さんの意見
- B さんの意見
- C さんの意見
- D さんの意見

まとめ これまでの常識とは別の視点をもつことで、世界をもっと多様に見ることができ、新しい気付きや楽しみを発見できるだろう。
*ワークシートに記述。

振り返り P. 176-185。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 『不便』の価値を見直す」③（第3時／全3時間）

目標 筆者の主張に対する自分の考えを書くことができる。

領域名 情報 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.172 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名『不便』の価値を見直す」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 筆者の主張に対する自分の考えを書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.176-183 を生徒に音読させる。9-10 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に(2)に進ませる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ④ 5分経過後、賛成の立場の者と反対の立場の者の挙手を求め、人数を板書する。 ⑤ その後、ワークシート(2)に取り組みさせる。原稿用紙を使っても良い。取組の良い生徒に音声発表させても良い。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・形式段落に番号を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・賛成、反対の挙手をする。 ・発表者の意見をきいて、参考にする。
終 3分	⑥ 振り返り ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は P.186-187 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時にまとめた筆者の結論に対して自分は賛成か反対かの立場を明確にさせる。
- ・選んだ自分の立場に立って、根拠や事例を複数あげさせながら自分の主張を意見文にさせる。
- ・他の発表を聞かせ、自分の意見文の参考にさせる。

板書例

① P. 172 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 176-185 を生徒に音読させる。
- ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 - ・ワークシート(1) (2)に取り組みせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に(2)に進ませる。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ④ 5分経過後、賛成の立場の者と反対の立場の者の挙手を求め、人数を板書する。
- ⑤ その後、ワークシート(2)に取り組みせる。原稿用紙を使っても良い。取組の良い生徒に音声発表させても良い。

日付	月 日
復習	P. 172 の漢字テスト
題材	『不便』の価値を見直す
目標	筆者の主張に対する自分の考えを書こう。
課題	筆者の考えに賛成か反対を決め、自分の考え・根拠・事例を書こう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の見	
	(1) 『不便』の価値を見つめ直す」の筆者の考えに賛成か反対か。
	① 賛成 () 名 ・ 反対 () 名
	(2) 自分の考えを200〜400字程度で書こう。
	A さんの意見
	B さんの意見
	C さんの意見
	D さんの意見
まとめ	賛成でも反対でも、根拠や事例を示して、引用や要約は原典を示すと良い。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P. 186-187。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べておく。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 186-187 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「助言を自分の文章に生かそう」(第1時/全2時間)

目標 書評を書き、読み手からの助言を基に、自分の文章の良い点や改善点を見いだすことができる。

領域名 言語文化 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 185 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「助言を自分の文章に生かそう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 作品を選んでその書評を書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 186-187 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。2分。 ④ 作品毎に何人が選んだか、挙手させる。＊同じ作品を選んだグループを作ってもよい。 ⑤ ワークシート(2)(3)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。P. 187 上段「書評に使う言葉」を参照させる。 ⑥ 板書の発表を皆で確認する。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。作品毎に挙手する。 ・ワークシート(2)(3)に取り組む。進んでいる生徒は発表する。 ・P. 187 を参照する。 ・進んで書けている生徒の書評を参考にする。
終 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P. 186-187 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・皆が知っているだろう作品(物語)から一つを選ばせる。同じ作品毎の人数を板書する。
- ・その作品の良さを分析させ、書評を書かせる。進んでいる生徒の書評を発表させて参考にさせても良い。
- ・良さや疑問点等も含めて書評として作成させる。P. 187 上段「書評に使う言葉」を参照させる。

板書例

① P. 185 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 186-187 を生徒に音読させる。
・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
・課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。2分。
- ④ 作品毎に何人が選んだか、挙手させる。*同じ作品を選んだグループを作ってもよい。
- ⑤ ワークシート(2)(3)に取り組みさせる。
・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。P. 187 上段「書評に使う言葉」を参照させる。
- ⑥ 板書の発表を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P. 185 の漢字テスト
題材	「助言を自分の文章に生かそう」
目標	書評を書き、読み手からの助言を基に、自分の文章の良い点や改善点を見いだす。
課題	今までの物語の中から一つを選んで分析し、書評を書こう。 *ワークシートに記述。
自分の意見 友達の意見	(1) 今までに習った物語から一つを選ぶ。 ① おおきなかぶ () 名 ② お手紙 () 名 ③ スイミー () 名 ④ ごんぎつね () 名 ④ 大造じいさんとガン () 名 ⑤ シンシュン () 名 ⑥ 星の花が降るころに () 名 ⑥ 大人になれなかった弟たちに…… () 名
	(2) 作品の魅力进行分析する…全部でなくてもよい。 ① 設定 (登場人物・時代・場所) ↓ *生徒の記述 ② 場面の展開 (冒頭・山場・結末) ↓ ③ 題名・構成・描写・心情 ↓ ④ 情景・言葉・表現・文体 ↓ ⑤ 文章のリズム・挿絵 ↓
	(3) 四百字程度で書評を書こう。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見 D さんの意見
まとめ	感想文は、自分の感想を述べたものだが、書評は、読み手にその作品を薦める姿勢が基本である。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P. 186-187。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べておく。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 146-149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「助言を自分の文章に生かそう」②（第2時／全2時間）

目標 書評を書き、読み手からの助言を基に、自分の文章の良い点や改善点を見いだすことができる。

領域名 言語文化 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 185 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「助言を自分の文章に生かそう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 読み手からの助言を基に、自分の文章の良い点や改善点を見いだす。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 186-187 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ、一行読み）や「段落読み」（連読み）で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・各自の書評を発表させる。教師は評価の一助とする。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ ワークシート(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる（貼ってもよい）。自分の改善点に気づいている生徒は評価の一助とする。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑥ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意し、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・形式段落に番号を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。各自の書評の発表。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書の発表を参考にする。
終 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は P. 188 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・友達の書評を読ませ、その良さを見つけさせる。
- ・友達の書評の良さの気づきから、自分の書評の良さや改善点も見いださせる。

板書例

① P. 185 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 186-187 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ ワークシート(1)に取り組ませる。
 - ・各自の書評を発表させる。教師は評価の一助とする。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ ワークシート(2)に取り組ませる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。改善点に気づいている生徒は評価の一助とする。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑥ 板書の発表を皆で確認させる。

日付	月 日	復習	P. 185 の漢字テスト	題材	「助言を自分の文章に生かそう」	目標	読み手からの助言を基に、自分の文章の良い点や改善点を見いだす。	課題	自分の書評や友達の書評から、その良さや自分の改善点を見つける。	自分の意見	*ワークシートに記述。	友達の意見	*ワークシートに記述。
まとめ	(2) 友達の書評を読んで気づいた、自分の書評の良さや改善点。 良 さ ↓ A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見 D さんの意見 改善点 ↓ E さんの意見 F さんの意見 G さんの意見 H さんの意見												
振り返り	作品の特徴となっている部分がどのように良かったのかを書くと、作品の良さに気づいてもらえる。 *ワークシートに記述。												
次時	P. 188。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。												

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 188 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「漢字に親しもう4」(第1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 185 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「漢字に親しもう4」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 188 上段を生徒に音読させる。1分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。ワークシート(2)教科書 P. 188 の2・3に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。板書を皆で確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・ワークシート(2)教科書の問題に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書の回答と自分の回答を確認する。
終了 3分	<p>④ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑤ 次時の予告をする。 「次時は P. 189+P. 242-246 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校漢字であっても、読むだけでなく書けるように毎日の練習の大切さを伝えていく。

板書例

① P.185 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「漢字に親しもう4」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 188 上段を生徒に音読させる。
- ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
 - ・課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。
 - ・ワークシート(2)*教科書の設問2・3に取り組みさせる。
 - ・板書に発表された回答を皆で確認させていく。

日付	月 日
復習	P.185 の漢字テスト
題材	「漢字に親しもう4」
目標	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。
課題	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。
自分の意見	*ワークシートに記述。
友達の意見	(1) *生徒の記述発表 例 非常に危険で困難な登山に意欲を高くもって挑戦したところ、登頂に成功し大きな感激を味わうことができた。
	(2) 読み ① *生徒の記述発表
	(3) 漢字選び ① *生徒の記述発表
	②
	③
	④
	⑤
	⑥
	⑦
	⑧
まとめ	漢字は、書ければ読めるので、毎日自筆で練習すること、漢字を覚えることと語彙を増やすことができる。
振り返り	*ワークシートに記述。
次時	P.189+P.242-246。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑤ 次時の予告をする。
「次時は、P. 189+P. 242-246 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

④ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「文法への扉2」 P.189 「文法2」 P.242-246 (第1時/全1時間)

目標 日本語の文法を知り、適切に使用することができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.188 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「文法への扉2」「文法2」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">日本語の文法を知り、適切に使用しよう。</div> ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.189+P.242-246 を生徒に音読させる。6-8 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。更に進んでいる生徒には(2)に取り組みさせる。 ⑤ 板書された回答を皆で確認する。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書 P.242-P.246 を参照してワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終了 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.190-P.196 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。これが補習校の中学校の国語の家庭学習です。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・文法の構成表を掲示しても良い。
- ・本時の学習は、文章→段落→文→【文節】→単語→(音節)の【文節】レベルの働きであることを確認する。
- ・進むのが早い生徒に板書発表を依頼する。更に進んでいる生徒には、教科書 P.243-246 下段の問題に取り組ませる。

板書例

① P.188 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「文法への扉2」「文法2」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 189+P. 242-246 を生徒に音読させる。

④ ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。教科書 P. 242-246 参照。
・進んでいる生徒の板書に発表させる。更に早い者には、P. 243-246 下段の問題に取り組みさせる。

⑤ 板書された回答を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	「漢字に親しもう2」の漢字テスト 「文法の扉1」「文法1」
題材	日本語の文法を知り、適切に使用しよう。
目標	言葉の単位についてまとめよう。
課題	ワークシートに記述
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	教科書 P. 242-246 参照
【文法の構成】	文章↓段落↓文↓【文節】↓単語
【文節の関係】	*文節の種類 〓 「文の成分」
(1) 主・述の関係 (主語・述語)	「主語」 〓 「述語」 〓
(2) 修飾・被修飾の関係 (修飾語)	「修飾語」 〓 「連用修飾語」 〓 「連体修飾語」 〓
(3) 接続の関係 (接続語)	「接続語」 〓
(4) 独立の関係 (独立語)	「独立語」 〓
【連文節】	↓「主部」「述部」「修飾部」「接続部」「独立部」
「並立の関係」	〓
「補助の関係」	〓
【文の組み立て】	主述の関係が重要だが、主語が隠れている場合もある。
まとめ	文節は、その働きにより五つの種類に分けられる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 190-196。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べ てくる。

作製しておいた文法構造図を貼っても良い。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 190-196。次週は P. 198-213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「読書に親しむ 考える人になろう」「本の世界を広げよう」「季節のしおり冬」P.190-196（第1時／全1時間）

目標 読書が、知識・情報を得たり自分の考えを広げたりすることを理解することができる。

領域名 言語文化 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 188 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「考える人になろう」「本の世界を広げよう」「季節のしおり冬」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 読書が、知識・情報を得たり自分の考えを広げたりすることを理解しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 190-P. 196 を生徒に音読させる。7-8 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ④ 板書された回答を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 190-P. 196 を参照してワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終了 3分	⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 198-P. 213 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・本の中にある新しい発想や考え方に触れ、自分の視野を広げさせる。
- ・読書することの楽しさや読書することで得られる知見や疑似体験の多様性に気づかせる。
- ・季節を感じる日本語の奥深さや多様性を感じさせ、語感を磨く。

板書例

① P.188 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「考える人になろう」「本の世界を広げよう」「季節のしおり冬」、本時の目標を板書する。

③ P. 190-P. 196 を生徒に音読させる。
・ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。進んでいる生徒に板書に発表させる。

④ 板書された回答を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.188 の漢字テスト
題材	「考える人になろう」「本の世界を広げよう」「季節のしおり冬」
目標	読書が、知識・情報を得たり自分の考えを広げたりすることを理解する。
課題	本の中の考え方や新しい発想、生き方などを一緒に考えよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	【君たちはどう生きるか】吉野源三郎 「おじさんの発言」*生徒の記述 「コペルくんの妙な気持ち」*生徒の記述
	【たのしい制約】砂糖雅彦 「がちがちな制約の課題」*生徒の記述 「自分で好きな条件で課題を作って」*生徒の記述 ↓ *生徒の記述
	【本の世界を広げよう】 「*生徒の記述」 著者 () 「 」 著者 ()
	(2) 教科書P.196を読んで答えよう。 【季節のしおり 冬】 「雪」にまつわる言葉 六花 (*生徒の記述) *教科書P.196 参照 細雪 () 雪明かり ()
まとめ	読書は知識や情報を得られるだけでなく、生き方を考える機会を与えてくれる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P.198-213。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べ

⑥ 次時の予告をする。

「次時は、P.198-213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑤ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「少年の日の思い出」①（第1時／全5時間）

目標 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.193 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「少年の日の思い出」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p>場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.198-213 を生徒に音読させる。15-16 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 <p>④ 板書された回答を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終了 3分	<p>⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P.198-213 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・少年の日の思い出を通読させ、前半部分と後半部分では語り手が違うことに気づかせる。
- ・語り手と場面設定について、まとめさせる。
- ・作品中の特徴的な語句の意味を調べ、語彙を豊かにさせる。

板書例

① P.193 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「少年の日の思い出」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P.190-196 を生徒に音読させる。
・ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。

④ 板書された回答を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P.193 の漢字テスト
題材	「少年の日の思い出」
目標	場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。
課題	「語り手に着目して、前半と後半の場面設定をとらえ、作品の語句を調べよう。」
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	
(1)	*生徒の記述
(2)	*生徒の記述
まとめ	大人になった人が、自分の少年時代の悲しい思い出を語るときの気持ちを想像しよう。
振り返り	*ワークシートに一行で記述。
次時	P.198-213。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べ

⑥ 次時の予告をする。

「次時は、P.198-213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑤ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「少年の日の思い出」②（第2時／全5時間）

目標 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.193 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「少年の日の思い出」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.200L12-P.210L8 を生徒に音読させる。10-11 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシートに取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終了 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P.198-P.213 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・「少年の日の思い出」後半の四場面を場面毎に概要をまとめさせる。
- ・後半の語り手と場面設定について、語り手の少年の心情にそって、まとめさせる。

板書例

① P.193 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「少年の日の思い出」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 200L12-P. 210L8 を生徒に音読させる。

④ 課題を斉唱させ、ワークシートに取り組みさせる。
・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。
⑤ 板書された回答を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	P.193 の漢字テスト
題材	「少年の日の思い出」
目標	場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。
課題	後半の場面の展開をまとめよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	

(1) 後半部分を場面毎にまとめよう

①教科書 P. 200L12-P. 210L15
【僕は、…… *生徒の記述】

②教科書 P. 201L16-203-L14
【僕は、…… *生徒の記述】

③教科書 P. 203L15-207L5
【僕は、…… *生徒の記述】

④教科書 P. 207L6-210L8
【僕は、…… *生徒の記述】

まとめ
う。

振り返り
↓ワークシートに一行で記述。

次時
P.198-213。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 198-P. 213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「少年の日の思い出」③（第3時／全5時間）

目標 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P.193 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「少年の日の思い出」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P.212-P.213 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.198-P.213 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・エーメールの人柄を表現している部分をまとめさせる。
- ・エーメールのクジャクヤママユを盗んで潰してしまった少年が、自分のちょうも潰した意味を考えさせる。

板書例

① P.193 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「少年の日の思い出」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 200L12-P. 210L8 を生徒に音読させる。

④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。
⑤ 板書された回答を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	P.193 の漢字テスト
題材	「少年の日の思い出」
目標	場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。
課題	エーミールの人柄や、僕が収集をつぶした意味を考えよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	

(1) 「僕」から見たエーミールの人柄を端的に表している描写を見つけて書き出そう。
*生徒の記述

(2) 「僕」が、自分のちやうの収集を一つ一つ粉々に押しつぶしたのは、なぜだったのだろう。

A さんの意見
B さんの意見
C さんの意見

まとめ
エーミールの人柄が僕には気に入らなかったが、だからといって大切なクジャクヤママユを盗んで潰したことは、収集家として許されなかった。
↓ワークシートに一行で記述。

振り返り
↓ワークシートに一行で記述。

次時
P. 198-213。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 198-213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「少年の日の思い出」④（第4時／全5時間）

目標 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めることができる。

領域名 言葉 B 書くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P.193 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「少年の日の思い出」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p>場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P.212-213 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、</p> <p>④ ワークシートに取り組ませる。裏面可。 ・机間指導して、進んでいる生徒には両方（エーミール・母）の視点で作話させる。進んでいない生徒には個別指導する。</p> <p>⑤ 次時の発表のために、自作の物語を読む練習をさせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。裏面可。 ・進んでいる生徒は、両者の視点で作話する。 ・自分の作話を読む練習をする。
終 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P.198-213 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・語り手をエーミールか母にして、同じストーリーで作話させる。
- ・早くできた生徒には、両方の立場で作話させる。
- ・語り手が変わることで、物語が変化することに気づかせたい。

板書例

① P.193 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「少年の日の思い出」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 212-213 を生徒に音読させる。
④ ワークシートに取り組みさせる。進んでいる生徒には両方（エーミール・母）の視点で作話させる。進んでいない生徒には個別指導する。

⑤ 自作の物語を読む練習をする。

日付	月 日
復習	P.193 の漢字テスト
題材	「少年の日の思い出」
目標	場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。
課題	語り手（視点）を変えて、この物語を書き直してみよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	<p>(1) エーミールか母を語り手にして、この物語を書き直してみよう。</p> <p>選ぶ↓エーミール・母</p> <p>*できた人は二人とも視点で作話する。</p> <p>*次時は、発表</p> <p>*書けた人は読む練習。</p>
まとめ	立場（語り手）が変わると、同じストーリーでもずいぶん印象が変わる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P. 198-213。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 198-213 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「少年の日の思い出」⑤（第5時／全5時間）

目標 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めることができる。

領域名 言葉 B 聞くこと C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 193 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「少年の日の思い出」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 212-P. 213 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、前時に作話した各自の物語を発表させる。 ・発表中は、よく聞いて評価すると共に必ずほめる。聞く態度も評価に加える。発表後は1分程度感想・評価の時間をとる。 ⑤ 発表を聞いて、良かった生徒を挙げさせて、もう一度発表させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・前時の自分の作話を発表する。 ・他社の発表を聞いて、良い点をメモする。 ・良かった発表者を挙げる。
終 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 214。次週は P. 215-+P. 247-250 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・語り手（視点）を変えた各自の作話を発表させ、人物像や物語の印象が変化することを感じさせる。
- ・発表された作話やその発表態度など、必ずほめること。

板書例

① P.193 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「少年の日の思い出」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P.212-213 を生徒に音読させる。
④ 課題を斉唱させ、前時に作話した各自の物語を発表させる。

⑤ 発表を聞いて、良かった生徒を挙げさせて、もう一度発表させる。

日付	月 日
復習	P.193 の漢字テスト
題材	「少年の日の思い出」
目標	場面の展開や表現の効果、語り手に着目して、作品を読み深めよう。
課題	語り手（視点）を変えた物語を発表しよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	エーミールの立場を選んだ（ ）人 母の立場を選んだ（ ）人
まとめ	立場（視点・語り手）が変わると、同じストーリーでもずいぶん印象が変わる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P.214。次週はP.215~P.247-250。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べよう。

⑦ 次時の予告をする。

「次時は、P.214。次週はP.215~P.247-250 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「漢字に親しもう5」(第1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 213 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「漢字に親しもう5」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 214 上段を生徒に音読させる。1分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組ませる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。</p> <p>⑤ 板書を皆で確認させていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書の回答と自分の回答を確認する。
終 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は P. 216-P. 219。次週 P. 220-P. 223 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校漢字であっても、読むだけでなく書けるように毎日の練習の大切さを伝えていく。

板書例

① P.213 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5 問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「漢字に親しもう 5」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 214 上段を生徒に音読させる。
・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1) (2) に取り組ませる。
・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表してもらおう。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書に発表された回答を皆で確認させていく。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.213 の漢字テスト	「漢字に親しもう5」	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。	*ワークシートに記述。	
					(1) *生徒の記述	
					(2) 2 漢字の読み	
					⑥ ⑤ ④ ③ ② ①	
					3 四字熟語	
					⑥ ⑤ ④ ③ ② ①	

まとめ 漢字は、書ければ読めるので、毎日自筆で練習すること、漢字を覚えることと語彙を増やすことができる。

振り返り *ワークシートに記述。

次時 P. 216-219。次週 P. 220-23。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P. 146-P. 149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「文法への扉3」P.215「文法3」（第1時／全1時間）

目標 日本語の文法を知り、適切に使用することができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 213 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「文法への扉3」「文法3」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 日本語の文法を知り、適切に使用しよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 214+P. 247-250 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認させる。 ＊時間があれば、教科書 P. 247-P. 248 の下段の問題に取り組みさせる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、教科書 P. 247-P. 250 を参照してワークシートに取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終了 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 216-P. 219。次週 P. 220-P. 223 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・文法の重要な概略を押さえる学習。文章→段落→文→文節→単語 の各段階（レベル）をつかませる。
- ・単語の種類＝品詞（名詞・動詞・・・）、文節の種類＝文の成分（主語・述語・・・）、を区別させる。
- ・品詞分類表は今後も使えるし、他学年でも使えるので、模造紙などに作製し、掲示できるようにすると良い。

板書例

① P.213 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「文法への扉2」「文法2」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 215+247-250 を生徒に音読させる。
 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。

⑤ 板書された回答を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	P.213 の漢字テスト
題材	「文法の扉3」「文法3」
目標	日本語の文法を知り、適切に使用しよう。
課題	単語の種類についてまとめよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	教科書 P.247-250 参照
(1)教科書 P.247-P.250 を参照してまとめよう。 【文法の構成】文章↓段落↓文↓文節↓【単語】 【単語の種類】＝【品詞】(十種類) P.249 「品詞分類表」を書き抜く *品詞分類表 生徒の記述か掲示	
(2) 単語の種類 【自立語】＝「 」で文節を作る事ができる単語 【付属語】＝必ず「 」と共に文節を作る単語 【活用する自立語】＝「 」・「 」・「 」＝用言 【活用しない自立語】＝「 」(体言)・副詞・連体「 」・感動詞 【活用する付属語】＝「 」 【活用しない付属語】＝「 」	
まとめ	主語と名詞、主語と体言は、文節の働き(文の成分)と単語の働きの違い。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P.216-219。次週 P.220-P.223。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

作製しておいた品位分類表を貼っても良い。

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P.216-219。次週 P.220-223。を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう」

題材名 「随筆二編」 P.216-219 (第1時/全1時間)

目標 筆者の思いについて考え、自分の忘れられない言葉を考えさせることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 214 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「随筆二編」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 筆者の思いについて考え、自分の忘れられない言葉を考えよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 214+P. 247-250 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された回答を皆で確認させる。 ⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。 ⑦ できた生徒に板書に発表させる。貼っても良い。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・同上 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・自分の参考にする。
終了 3分	⑧ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑨ 次時の予告をする。 「次時は、P. 220-223. の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・筆者の思いを考えさせ、題名や平仮名で書かれた言葉の意味を考えさせる。
- ・自分のわすれられない言葉を決めさせ、その理由や経験を記述させる。

板書例

① P.214 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「随筆 二編」、本時の目標を板書する。
目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 216-P. 219 を生徒に音読させる。
④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒の板書に発表させる。

⑤ 板書された回答を皆で確認させる。
⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒の板書に発表させる。*貼っても良い。
⑦ 発表された意見を聞いて参考にさせ、自分の忘れられない言葉を作成させる。

日付	月 日
復習	P. 214 の漢字テスト
題材	「随筆二編」
目標	筆者の思いについて考え、自分の忘れられない言葉を考えよう。
課題	筆者の思いをとらえ、自分のわすれられない言葉を思い出そう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の見	

(1) 『空』と『えんぼう』の筆者の思いをとらえよう。

① 『空』の筆者が、「風花」ではなく、「空」という題名にしたのは、何故だろう。

Aさんの意見
Bさんの意見
Cさんの意見

② 幼い筆者にとって『えんぼう』という言葉は、どのような意味をもっていたのだろうか。

Aさんの意見
Bさんの意見
Cさんの意見

(2) 自分自身を振り返って、忘れられない言葉を一つ選、その理由を簡潔に記述しましょう。

Aさんの意見
Bさんの意見
Cさんの意見

まとめ 同じ言葉でも、自分の感じる言葉の意味と他者が感じる言葉の意味は、全く同じではない。

振り返り ↓ワークシートに一行で記述。

次時 P. 220-223。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べ

⑨ 次時の予告をする。
「次時は、P. 220-223。を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑧ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

構成や展開を工夫して書こう

学習目標

二年 組 氏名 ()

物語の題材を決めよう。

○これまでに学習した物語や小説を振り返ろう。

印象に残っている作品「

」

・設定 時：

場所：

登場人物：

・場面の展開（出来事と人物の心情の変化を考え、友達と伝え合ってみよう。）

○生活を振り返り、物語で取り上げたい「ある日」を選ぼう。（決めたものに○をつける）

観点	題材とする日
心に残る出来事があった日	
全力で何かに取り組んだ日	
自分が変わった瞬間を感じた日	

○物語の設定を考えよう。

・時：

・場所：

・登場人物：

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

構成や展開を工夫して書こう 記入例

学習目標

二年 組 氏名 ()

物語の題材を決めよう。

○これまでに学習した物語や小説を振り返ろう。

印象に残っている作品「アイスプラネット」

・設定 時：夏

場所：東京の西の郊外

登場人物：僕(中学生)、ぐうちゃん(ぐうたら三八才)、母、父

・場面の展開(出来事と人物の心情の変化を考え、友達と伝え合ってみよう。)

○生活を振り返り、物語で取り上げたい「ある日」を選ぼう。(決めたものに○をつける)

観点	題材とする日
心に残る出来事があった日	
全力で何かに取り組んだ日	
自分が変わった瞬間を感じた日	

記入例は教科書
217ページ参照

○物語の設定を考えよう。

・時：

・場所：

・登場人物：

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

題材名 「構成や描写を工夫して書こう」①（第1時／全3時間）

目標 筆者の思いについて考え、自分の忘れられない言葉を考えることができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 219 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「構成や描写を工夫して書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書く。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<p>・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。</p> <p>・本時の目標を知る。</p> <p>・声を合わせて目標を読む。</p> <p>・目標をワークシートに記入する。</p>
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 220-P. 223 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。</p> <p>⑤ 板書された発表を皆で確認させる。</p>	<p>・自分の順番に注意して、音読する。</p> <p>・読めない漢字は、素直に聞く。</p> <p>・読めない、わからない語句に□を付ける。</p> <p>・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)(3)に取り組む。指名を受けて板書に発表する。</p> <p>・自分の参考にする。</p>
終 3分	<p>⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑦ 次時の予告をする。 「次時は、P. 220-223 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<p>・一行感想を書いて、数名発表。</p> <p>・次時の見通しと家庭学習を知る。</p>

指導のポイント

- ・自分のわすれられない言葉や体験を思い出させ、その言葉や体験から随筆にする一つを決めさせる。
- ・決めた言葉や体験について、よく思い出させ、その意味や思いを考えさせる。
- ・集めた材料をどういう順番で記述するかを考えさせる。

板書例

① P.219 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「構成や描写を工夫して書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 220-P. 223 を生徒に音読させる。
 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。
 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。

⑤ 板書された発表を皆で確認する。各自の参考にさせる。

日付	月 日
復習	P.219 の漢字テスト
題材	「構成や描写を工夫して書こう」
目標	内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書く。
課題	随筆にする題材を選び、材料を集め、構成を考えよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	

(1) 前時の「わすれられない言葉・体験」などを参考に、自分の随筆にする題材を決めよう。①②③どれでも。
 A さんの意見
 B さんの意見
 C さんの意見

(2) (1)で決めた体験や言葉について、材料・その思いを集め
 A さんの意見
 B さんの意見
 C さんの意見

(3) (2)で集めた材料をどの順番で書くか。

まとめ
 材料を思い出すときは、付箋を使ったりマップを使ったりする
 と思出しやすい。
 ↓ワークシートに一行で記述。

振り返り
 ↓ワークシートに一行で記述。

次時 P.220-223。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 220-P. 223 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる数名に発表させる。

構成や展開を工夫して書こう

学習目標

二年 組 氏名 ()

物語のあらすじを考えて交流しよう。

○物語の構成の基本を知ろう。

・構成の基本は起承転結！

起…状況設定・出来事の発端

承…展開（出来事の経緯。）

転…山場（状況が大きく動き、心情や考え方が変化。）

結…結末（出来事のその後。）

○語り方を決めよう。

() 人称視点

○起承転結に分けてあらすじを書き、友達と交流しよう。

起

先輩とペアを組んで初めて試合に出場する律子。

承

緊張のためか、ミスが続き、少しも活躍できないまま第一ゲームが終わる。

転

しかし、第一ゲームが終わった後に先輩が掛けてくれた一言で、前向きな気持ちになる。

結

第二ゲームに入ると、次々とサーブが決まりだす。

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

学習目標

二年 組 氏名 ()

物語のあらすじを考えて交流しよう。

○物語の構成の基本を知ろう。

・構成の基本は起承転結！

起…状況設定・出来事の発端

承…展開（出来事の経緯。）

転…山場（状況が大きく動き、心情や考え方が変化。）

結…結末（出来事のその後。）

○語り方を決めよう。

() 人称視点

○起承転結に分けてあらすじを書き、友達と交流しよう。

起

先輩とペアを組んで初めて試合に出場する律子。

承

緊張のためか、ミスが続き、少しも活躍できないまま第一ゲームが終わる。

転

しかし、第一ゲームが終わった後に先輩が掛けてくれた一言で、前向きな気持ちになる。

結

第二ゲームに入ると、次々とサーブが決まりだす。

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

題材名 「構成や描写を工夫して書こう」②（第2時／全3時間）

目標 内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書くことができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 219 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「構成や描写を工夫して書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書こう。</p> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 220-223 を生徒に音読させる。5-6 分程。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。3分。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。板書された回答を皆で確認させる。 <p>⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。随筆を作成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書き出しの工夫①～④から一つを選ばせて、作成時に生かさせる。 ・できた生徒に板書に発表させる。貼っても良い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・書き出しの工夫を選ぶ。 ・自分の参考にする。
終了 3分	<p>⑦ 振り返らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 <p>⑧ 次時の予告をする。</p> <p>「次時は、P. 220-223 で随筆の発表をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時に集めた材料を工夫して順番に構成し、随筆として作成させる。
- ・書き出しの工夫を①～④の中から選ばせて、自分の随筆作成時に生かすようにさせる。

板書例

① P.219 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「構成や描写を工夫して書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 220-P. 223 を生徒に音読させる。
④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒の板書に発表させる。

⑤ 板書された回答を皆で確認する。
⑥ ワークシート(2)に取り組みさせる。随筆を書かせる。
・進んでいる生徒に板書に発表させる。*貼っても良い。

日付	月 日
復習	P.219 の漢字テスト
題材	「構成や描写を工夫して書こう」
目標	内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書く。
課題	書き出しや描写を工夫して、随筆を書こう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	
	(1) 書き出しの工夫をまとめる。教科書P.222参照。 ① *生徒の記述 ② ③ ④
	(2) (1)の書き出しの工夫から一つを選んで、前時の材料を構成順にして随筆を書く。600〜800字程度。 *裏面か別紙（原稿用紙）
まとめ	自分の随筆を書くとき自分を振り返ることができる。
振り返り	↓ワークシートに一行で記述。
次時	P.220-223。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 220-P. 223 で随筆の発表をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「構成や描写を工夫して書こう」(第3時/全3時間)

目標 内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書くことができる。

領域名 言葉 B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 219 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「構成や描写を工夫して書こう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書こう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 220-P. 223 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ)や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組ませる。発表。 ・発表時は、聞く態度にも注意させ、発表をよく聞かせて、発表後には必ず一言ほめる。評価の一助にする。 ⑤ ワークシート(2)(3)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑥ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。指名を受けて音読発表する。 ・ワークシート(2)(3)に取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・自分の参考にする。
終了 3分	⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 224-P. 226。次週は P. 227-P. 228。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・前時に作成した随筆を発表させる。できあがっていない者は、できている部分のみを発表させる。
- ・友達の発表の一行感想を書かせる。1分ずつくらい記入時間を取る。
- ・(2)自分の振り返り、(3)友達の作品からの参考 を考えさせて記述させる。

板書例

① P.219 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「構成や描写を工夫して書こう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 220-P. 223 を生徒に音読させる。
④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。随筆の発表。
・発表後に一行感想を書かせる。記入時間として1分ずつ取る。

⑤ ワークシート(2)(3)に取り組みさせる。
・進んでいる生徒に板書発表させる。進まない生徒には個別指導。
⑥ 板書の発表を皆で確認する。

日付	復習	題材	目標	課題
月 日	P.219 の漢字テスト	「構成や描写を工夫して書こう」	内容の中心が明確になるように、構成や描写を考えて随筆を書く。	自作の随筆を発表したり、友達の発表を聞いたりして、自分を振り返ったり、参考にしたりすることを見つけよう。
自分の意見 ワークシートに記述				
友達の意見 (1) 随筆の発表↓一行感想 【さん↓感想 *各自のワークシートに記入				
(2) 随筆を書いて再発見した「自分」はどのようなものだったか。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見				
(3) 友達の随筆を聞いて、参考にしたいことはどんなことだったか。 A さんの意見 B さんの意見 C さんの意見				
まとめ 中学校に入って、友達からの言葉かけがとても自分の気持ちに影響していたことが分かった。 ↓ワークシートに一行で記述。				
振り返り ↓ワークシートに一行で記述。				
次時 P. 224-226。次週は P. 227-228。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。				

⑧ 次時の予告をする。
「次時は、P. 224-P. 226。次週は P. 227-P. 228。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

二年 組 氏名 ()

学習目標

話し言葉と書き言葉の特徴を理解しよう。

○話し言葉とは…

○書き言葉とは…

○次のア～クについて、話し言葉にはA、書き言葉にはBを書き入れよう。

ア () 伝えたい内容を整理し、順序を整えて具体的に表現する。

イ () 重要な内容を繰り返して、相手に確認を求めることができる。

ウ () 「こそあど言葉」が使われたり、内容が省略されたりする。

エ () 「…ですね。」「…よね。」など、念を押ししたり同意を求めたりする言葉が多く使われる。

オ () 表記や文末を整え、誤解を与えないようにする。

カ () 同音異義語は、読み方を変えるなどして区別する。

キ () 音量や速さ、間の取り方を工夫できる。

ク () 基本的に共通語を用いる。

○221ページの内容をクラスの人への報告の文章にしよう。

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

二年 組 氏名 ()

学習目標

話し言葉と書き言葉の特徴を理解しよう。

○話し言葉とは…音声によって伝えられる言葉。

目の前にいる相手に対してつかわれることが多い。

○書き言葉とは…文字によって伝えられる言葉。

目の前にいない相手にも伝えられる。読み手は何度も読み返せる。

○次のあくくについて、話し言葉にはA、書き言葉にはBを書き入れよう。

ア (B) 伝えたい内容を整理し、順序を整えて具体的に表現する。

イ (A) 重要な内容を繰り返して、相手に確認を求めることができる。

ウ (A) 「こそあど言葉」が使われたり、内容が省略されたりする。

エ (A) 「…ですね。」「…よね。」など、念を押したり同意を求めたりする言葉が多く使われる。

オ (B) 表記や文末を整え、誤解を与えないようにする。

カ (A) 同音異義語は、読み方を変えるなどして区別する。

キ (A) 音量や速さ、間の取り方を工夫できる。

ク (B) 基本的に共通語を用いる。

○221ページの内容をクラスの人への報告の文章にしよう。

新聞社の校閲部は間違いがないかを調べるところだそうです。

新聞は、毎日短時間で大量の情報を紙面にしています。

そのため、字の間違いや事実との整合性などを厳しくチェックしているそうです。

○学習目標を確認し、振り返りをしよう。

題材名 「さまざまな表現技法」(1時/全1時間)

目標 さまざまな表現技法を知り、生活や叙述の中で使用できるようにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 219 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「さまざまな表現技法」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 さまざまな表現技法を知り、生活や叙述の中で使用できるようにする。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 224-226 を生徒に音読させる。3-4 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。 ⑤ 板書の発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)(2)に取り組む。 ・進んでいる生徒は発表する。 ・板書発表を確認する。
終 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は P. 227-P. 229 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・表現技法をまとめさせる。
- ・P. 224 上段や P. 226 下段の用例を参考にさせて、生活や叙述の中で表現技法を使う意欲を高める。

板書例

① P.219 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「さまざまな表現技法」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 224-226 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)に取り組みさせる。
 - ・生徒がワークシートに取り組んでいる間は机間指導し、板書への発表者を選定したり個別指導をしたりする。
- ⑤ 板書されたものを皆で確認させる。

日付	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の意見
月 日	P.219 の漢字テスト	「さまざまな表現技法」	さまざまな表現技法を知り、生活や叙述の中で使用できるようにする。	さまざまな表現技法とその例をまとめよう。	*ワークシートに記述。	(1) (1)言葉の並べ方の表現技法 ①体言止め〓〓 *生徒の記述 例↓ ②倒置法〓〓 例↓ ③反復(法)〓〓 例↓ ④対句(法)〓〓 例↓ ⑤省略(法)〓〓 例↓ (2) 比喻(たとえ)の表現技法 ①直喩(法)〓〓 例↓ ②隠喩(法)〓〓 例↓ ③擬人法〓〓 例↓
<p>まとめ 知らずに使っている表現技法もあるが、意図的に使えるようになろう。</p> <p>振り返り *ワークシートに記述。</p> <p>次時 P. 227-229。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。</p>						

⑦ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 146-P. 149 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「漢字3」「漢字に親しもう6」(第1時/全1時間)

目標 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにすることができる。

領域名 言葉

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 226 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「漢字3」「漢字に親しもう6」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 227-P. 229 上段を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ、一行読み)や「段落読み」(連読み)で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)(4)に取り組みさせる。 ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導をする。⑤ 発表された板書を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。進んでいる生徒は指名を受けて板書に発表する。 ・板書の回答と自分の回答を確認する。
終 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「次時は P. 230-P. 233。の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校漢字であっても、読むだけでなく書けるように毎日の練習の大切さを伝えていく。
- ・漢字の成り立ちは六書と呼ばれ、六種類あること、その意味を具体例と共に理解させる。
- ・慣用句は、一連の形で覚えることが大切。

板書例

① P.226 の新出漢字や新出音訓、難読語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「漢字3」「漢字に親しもう6」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

- ③ P. 227-P. 229 を生徒に音読させる。
 - ・音読させているときは巡回して、個別指導を行う。
- ④ 課題を斉唱させ、ワークシートに取り組みさせる。
 - ・生徒が取り組んでいる間は机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表してもらおう。進んでいない生徒には個別指導をする。
- ⑤ 板書に発表された回答を皆で確認させていく。

日付	月 日	復習	題材	目標	課題	自分の意見	友達の見
		P.219 の漢字テスト	「漢字3」「漢字に親しもう6」	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。	語彙を増やし、漢字を読み書き使用できるようにしよう。	*ワークシートに記述。	
							<p>(1) 「六書」についてまとめよう。教科書P.227-228 参照</p> <p>*生徒の記述</p>
							<p>(2) 教科書P.228 下段の問題に取り組みよう。*生徒の記述</p> <p>1 ①月() ②狩() ③本() ④河()</p> <p>⑤末() ⑥武()</p> <p>2 ①() ②() ③() ④()</p> <p>3 ①() ②() ③() ④() ⑤()</p> <p>(3) 教科書P.229 上段1に取り組みよう。</p> <p>*生徒の記述</p>
							<p>(4) 教科書P.229 の2・3の問題に取り組みよう。*生徒の記述</p> <p>2 ①收穫 ②法廷 ③貨幣 ④更迭 ⑤勳章 ⑥虚偽</p> <p>3 ①腰を「 」 ②琴線に「 」 ③太鼓判を「 」</p> <p>④寸暇を「 」 ⑤二の足を「 」</p> <p>⑥耳を「 」 ⑦額に「 」</p>
							<p>まとめ</p> <p>漢字は、書ければ読めるので、毎日自筆で練習すること、漢字を覚えることと語彙を増やすことができる。</p> <p>振り返り</p> <p>*ワークシートに記述。</p>
							<p>次時</p> <p>P.230-233。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。</p>

⑥ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑦ 次時の予告をする。
「次時は、P.230-233 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「一年間の学びを振り返ろう」①（第1時／全2時間）

目標 観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表することができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 229 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「一年間の学びを振り返ろう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表する。</div> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 230-P. 233 を生徒に音読させる。5-6 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。観点決定には2分の時間制限。</p> <p>⑤ ワークシート(2)に取り組ませる。*教科書 P. 264-271 参照 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。</p> <p>⑥ 板書された回答を皆で確認させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・ワークシート(2)に取り組む。 ・指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終 3分	<p>⑦ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑧ 次時の予告をする。 「次時は、P. 230-P. 233。の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校一年生の国語の学習を振り返らせ、観点を決めさせ、情報を集めさせ整理させる。
- ・整理した情報をフリップ等（厚紙・画用紙・パワーポイントでも可）に作製させる。*用紙等準備必要。
- ・発表する構成を考えさせ、発表の練習をさせる。

板書例

① P.229 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「一年間の学びを振り返ろう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 230-233 を生徒に音読させる。
 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。*教科書 P. 264-271 参照。
 ・時間を2分以内等に限定し選ばせる。選んだ観点に挙手させる。

⑤ ワークシート(2)に取り組みさせる。
 ・進んでいる生徒の板書に発表させる。*貼っても良い。
 ⑥ 板書された発表を皆で確認する。

日付	月 日
復習	P. 228 の漢字テスト
題材	「一年間の学びを振り返ろう」
目標	学びを振り返る観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表する。
課題	観点を選び、材料を集め整理し、フリップ等を作製しよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	

① 文学的な文章を読むために
 ② 説明的な文章を読むために
 ③ 豊かに表現するために
 ④ 語彙を豊かに
 ⑤ 学習のための用語一覧

(1) 観点を選ぼう。

(2) 集める・整理する・組み立てる。*教科書 P. 264-271 参照。
 ① 選んだ観点で教科書やノート・ワークシート等を読み返し、情報を集めよう。
 ② 集めた情報をカード等に出す。
 ③ 書き出した情報を比較・分類して発表に使う項目を決めよう。
 ④ 何をどのような順序で発表するか、構成を考え番号を付ける。

*生徒の記述や良いカード、フリップ等

まとめ たくさんの情報の中から、発表に使う情報を選びポイントだけをフリップ等に行すること。

振り返り ↓ワークシートに一行で記述。

次時 P. 230-233。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べたくなる。

⑧ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 230-233 を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑦ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「一年間の学びを振り返ろう」②（第2時／全2時間）

目標 観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表することができる。

領域名 言葉 情報 A 話すこと・聞くこと B 書くこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	<p>① P. 229 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 *書きのみ。送り仮名も。</p> <p>② 本時の題材名「一年間の学びを振り返ろう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表する。</p> </div> <p>・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	<p>③ 教科書 P. 232-P. 233 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」（一文ずつ）や「段落読み」で、巡回して音読ができるようにする。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね！』等ほめる。</p> <p>④ 課題を斉唱させ、一人2-3分程度の発表をさせる。計時は教師。 ・発表時は、よく見聞きして、司会進行を行うと共に評価の一助とする。発表後は、内容・表現・態度など必ず一言はほめる。 ・発表が終了した後、質疑応答を促し、その後1分で一行感想を書かせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、フリップ等を使って発表する。 ・指名を受けて発表する。 ・他者の発表後に質問し、自分の発表後は応答する。 ・発表後は、一行感想を書く。
終了 3分	<p>⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。</p> <p>⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 234-P. 236。の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・発表準備が完了している生徒から発表させる。これも評価の一助とする。
- ・準備が完了していない生徒にも、できている段階までで発表させる。これも評価の一助とする。
- ・発表の評価は、内容・表現・態度の三大観点で評価する。

板書例

① P.229 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「一年間の学びを振り返ろう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 232-P. 233 を生徒に音読させる。
 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)に取り組みさせる。発表。
 ・発表時間は2-3分。計時は教師。よく見聞きし、評価の一助とする。

・発表時は、よく見聞きして、司会進行を行うと共に評価の一助とする。発表後は、内容・表現・態度など必ず一言はほめる。
 ・発表が終了した後、質疑応答を促し、その後1分で一行感想を書かせる。

日付	月 日
復習	P. 229 の漢字テスト
題材	「一年間の学びを振り返ろう」
目標	観点を決め、材料を集め、フリップ等作製し、聞き手に注意しながら発表する。
課題	聞き手に注意しながら、フリップ等を使って発表しよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	(1) 発表二〜三分↓・質疑応答・一行感想 【さん↓感想等〓 *生徒の記述 【さん↓感想等〓 【さん↓感想等〓

良かった点
 *生徒の発表の中で良かった点
 *良かったフリップなどを貼っても良い

まとめ
 フリップに絵や図が入ると聞き手を引きつけられる。ポイントになる言葉は、太く大きいフォントにすると分かりやすい。

振り返り
 ↓ワークシートに一行で記述。

次時
 P. 234-236。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べてくる。

⑤ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

⑥ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 234-P. 236。を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

題材名 「さくらの はなびら」 P.234-237 (第1時/全1時間)

目標 表現技法に注意しながら、詩を読み味わい、作者の思いに迫ることができる。

領域名 言葉 C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 229 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「さくらの はなびら」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 表現技法に注意しながら、詩を読み味わい、作者の思いに迫ろう。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 234-237 を生徒に音読させる。2-3 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落(連)読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ④ 板書された回答を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシートに取り組む。指名を受けて板書に発表する。 ・友達の意見を参考にする。
終 3分	⑤ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑥ 次時の予告をする。 「次時は、P. 260-262 の学習をします。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・表現技法の種類と効果を考えさせる。
- ・詩に用いられている言葉や表現を読み味わわせる。
- ・詩に表現された作者の思いを考えさせる。友達の気づいた作者の思いも参考にさせる。

板書例

① P.229 の新出漢字や新出音訓、難解語句などの豆テスト。5問（書きのみ。送り仮名も正しく）

② 題材名「一年間の学びを振り返ろう」、本時の目標を板書する。目標を斉読させ、記述させる。

③ P. 234-236 を生徒に音読させる。
 ・課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組ませる。
 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。

④ 板書された発表を皆で確認させる。

日付	月 日
復習	P. 229 の漢字テスト
題材	「さくらのはなびら」
目標	表現技法に注意しながら、詩を読み味わい、作者の思いに迫る。
課題	表現技法を見つけ、言葉の意味を考え、作者の思いを考えよう。
自分の意見	ワークシートに記述
友達の意見	ワークシートに記述

(1) 「さくらの はなびら」 視写しよう。
 ワークシートに視写

(2) P. 236 ②の問題に取り組もう。
 ① *生徒の記述

②

③

(3) 作者の思い
 Aさんの意見
 Bさんの意見
 Cさんの意見

まとめ
 桜の花びらも私たち人間も、宇宙の自然の循環の中では同じ存在であり、花びらが地面に着くまでは人間が死ぬまでに似て、次の命につないでいる。

振り返り
 ↓ワークシートに一行で記述。

次時 P. 260-262。毎日一回以上音読。新出漢字は練習。難読語句は調べよう。

⑥ 次時の予告をする。
 「次時は、P. 260-262。を学習します。毎日一回以上は音読してきましょう。新出漢字は練習してきましょう。分からない言葉は調べておきましょう。」

⑤ 授業の感想を一行でワークシートに記述させる。数名に発表させる。

題材名 「学習を振り返ろう」(第1時/全1時間)

目標 問題に取り組み、身につけた力を確認することができる。

領域名 情報 言語文化 A 話すこと・聞くこと、B 書くこと、C 読むこと

学習の流れ

	教師の働きかけ	生徒の活動
導入 7分	① P. 229 の新出漢字や注意語句の中から 5 問の漢字テストをする。 ＊書きのみ。送り仮名も。 ② 本時の題材名「学習を振り返ろう」を板書する。 ・本時の目標を板書する。 問題に取り組み、身につけた力を確認する。 ・声を合わせて読ませる。 ・ワークシートを配付し、氏名や目標などを書き込ませる。	・前時の学習の中から新出漢字・新出音訓、難解語句の豆テストをする。 ・本時の目標を知る。 ・声を合わせて目標を読む。 ・目標をワークシートに記入する。
展開 35分	③ 教科書 P. 260-P. 262 を生徒に音読させる。6-9 分程。 ・「丸読み」(一文ずつ) や「段落(連)読み」で、巡回して音読ができるようにさせる。 ・わからない漢字や語句には□を付けるようにさせる。 ・生徒が音読しているときは、巡回して□の語句の説明や音読の声の調子や表現が良い生徒には小さく『いいね!』等ほめる。 ④ 課題を斉唱させ、ワークシート(1)(2)(3)に取り組みさせる。 ・机間指導して、進んでいる生徒に板書に発表させる。進んでいない生徒には個別指導する。 ⑤ 板書された発表を皆で確認させる。	・自分の順番に注意して、音読する。 ・読めない漢字は、素直に聞く。 ・読めない、わからない語句に□を付ける。 ・課題を斉唱し、ワークシート(1)に取り組み。指名を受けて板書に発表する。 ・自分のワークシート回答と合わせる。
終 3分	⑥ 振り返らせる。 ・本時の学習の感想を一行だけでワークシートに記述させる。 ⑦ 次時の予告をする。 「これで中学校一年の国語の授業は終了です。現地校の学習もある中、皆さん本当によく頑張りました。本当に偉かったと思います。教科書の P. 272-P. 301 は読んで重要語句を調べてみましょう。その後の漢字の一覧も読めるかどうか、全部一読しておきましょう。」	・一行感想を書いて、数名発表。 ・次時の見通しと家庭学習を知る。

指導のポイント

- ・中学校一年生の国語の学習を振り返り、「読む」「話す・聞く」「書く」の領域別問題に取り組み、自分の到達度(それは教師の達成度でもある)を理解させ、今後の学習の参考にさせる。
- ・教科書の残されたページの紹介と共に、できるだけ重要語句や漢字に親しむよう話しかける。
- ・一年間の補習校学習に取り組んだことを、よく褒め、今後の向上心につながる言葉かけを行う。

